

.NET Framework 用帳票作成ツール

Reports.NET

デザイナー操作説明書

第 12 版
2016 年 4 月

Pao@Office

Copyright©2003-2016 Pao@Office

All rights reserved.

本書は、有限会社パオ・アット・オフィスが開発したソフトウェア「**Reports.net**」の「デザイナー」についての説明を行うものです。

利用者は本書のいかなる部分も、発行者の許可なく、複製を行ってはいけません。

有限会社パオ・アット・オフィスは、本書の内容に起因する一切の結果に関して、いかなる責任も負いません。

有限会社パオ・アット・オフィスは、本書の内容、または **Reports.net** の仕様を予告なく改訂、あるいは、内容変更する権利を有します。また、それらの行為を行った場合においても、利用者への通知の義務を負いません。

有限会社パオ・アット・オフィスは、**Reports.net** の仕様に起因する結果にたいして、いかなる責任も負いません。

マニュアル中での画像は、説明のため見やすく編集している箇所があります。利用者の皆様の画面とは一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

本マニュアルの中で記載されている製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

有限会社パオ・アット・オフィス

郵便番号 275-0026

千葉県習志野市谷津 3-29-2-401

<http://www.pao.ac/>

目次

動作条件	1
インストール方法.....	2
使用方法	3
デザイナー各部の名称と機能.....	3
基本操作.....	24
各オブジェクト	36
フォーム.....	36
文字.....	40
線.....	47
四角.....	49
円.....	52
画像.....	55
バーコード.....	61
装飾文字.....	67
Q&A.....	73
製品版について	74
使用許諾	75
代金支払い方法(ユーザ登録の方法).....	76
変更履歴	78

動作条件

本製品を使用するためには、以下の条件を満たす環境のパソコンが必要です。

OS	Microsoft.NET Framework が正常に動作するものである事
動作に必要なメモリ	Microsoft .NET Framework が正常に動作するために必要な容量
画面解像度	デザイナー:1024×768 以上の解像度で、フォントサイズが標準の「小さいフォント」である事 (エンジンのみの利用の場合は制限はありません)
開発環境	レポートのデザインを行うのみであれば必要ありません

インストール方法

「Pao.Reports.Design.exe」を任意のフォルダにコピーするだけです。レジストリは用いていません。ので、アンインストールを行う場合はファイルを削除して下さい。

使用方法

デザイナー各部の名称と機能

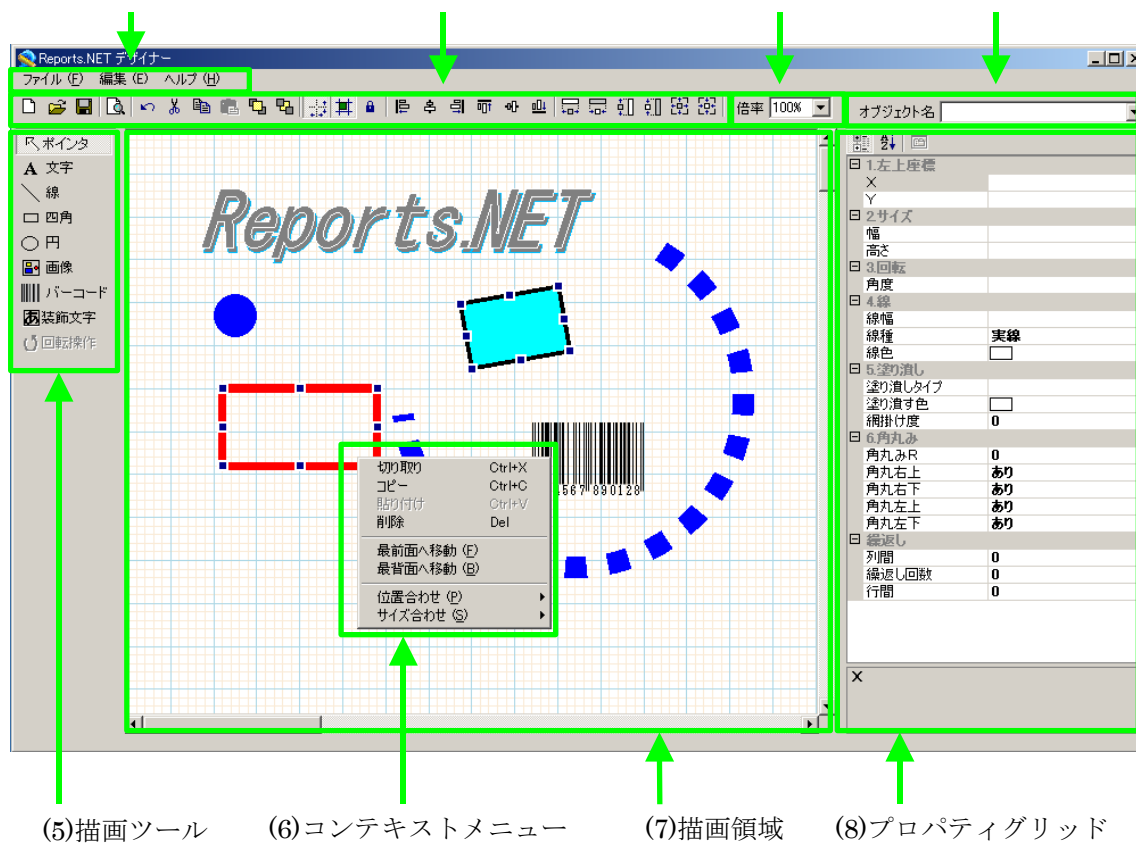
ここでは、デザイナーにおける各部の名称と機能について説明します。

(1)各メニュー

(2)ツールバー

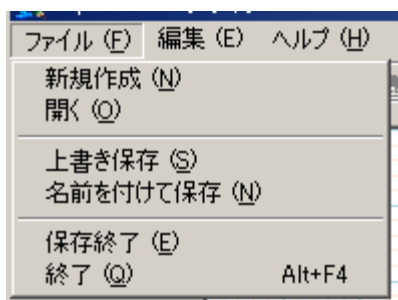
(3)表示倍率

(4)オブジェクト名



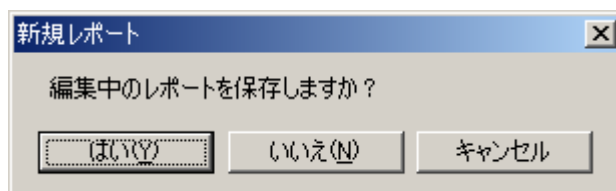
(1) 各メニュー

1. 「ファイル(F)」メニュー



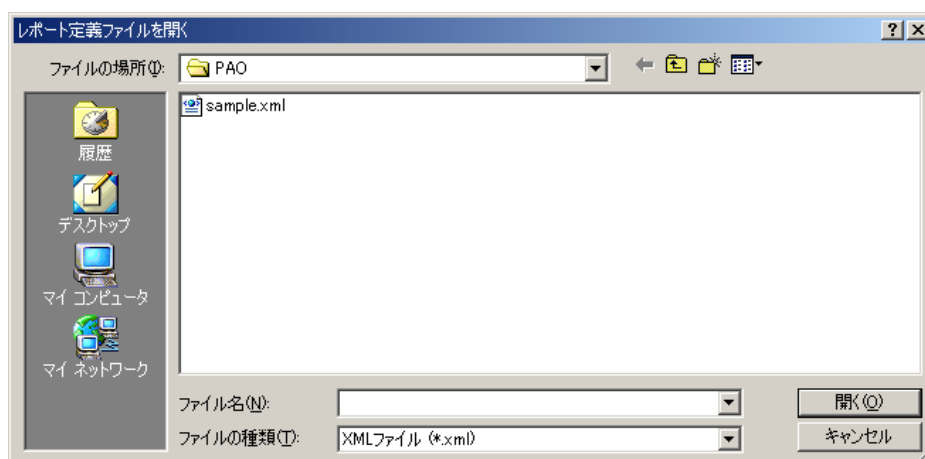
① 新規作成

新しいレポート定義ファイルを作成します。編集途中で保存していない状態のレポートがある場合には、編集途中のレポートを保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。



② 開く

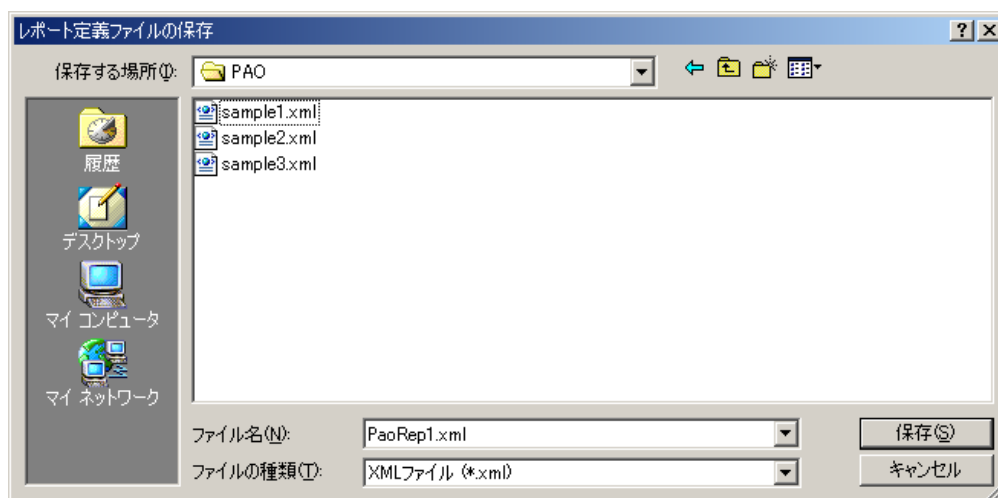
既存のレポート定義ファイルを開きます。ファイル選択ダイアログボックスが表示されます。開きたいレポート定義ファイルを指定する事により、レポートを開く事が出来ます。編集途中のファイルが保存されていない場合は、編集途中のレポートを保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。



③ 上書き保存

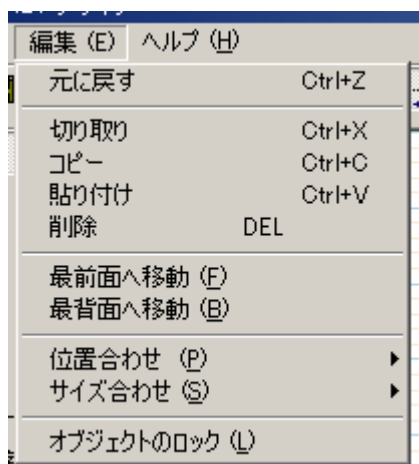
レポート定義ファイルを上書き保存します。まだ名前をつけていない状態のファイル(新規で作成して1度も保存されていないファイル)を編集中の場合は、

ファイル選択ダイアログボックスが表示されます。保存したいファイル名を設定する事により、レポートを保存する事が出来ます。



- ④ 名前を付けて保存
現在編集中のファイルを新たに名前を付けて保存します。
- ⑤ 保存終了
現在編集中のファイルを上書き保存して **Reports.net** デザイナーを終了します。
- ⑥ 終了
Reports.net デザイナーを終了します。編集途中で保存していない状態のレポートがある場合には、編集中のレポートを保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

2. 「編集(E)」メニュー

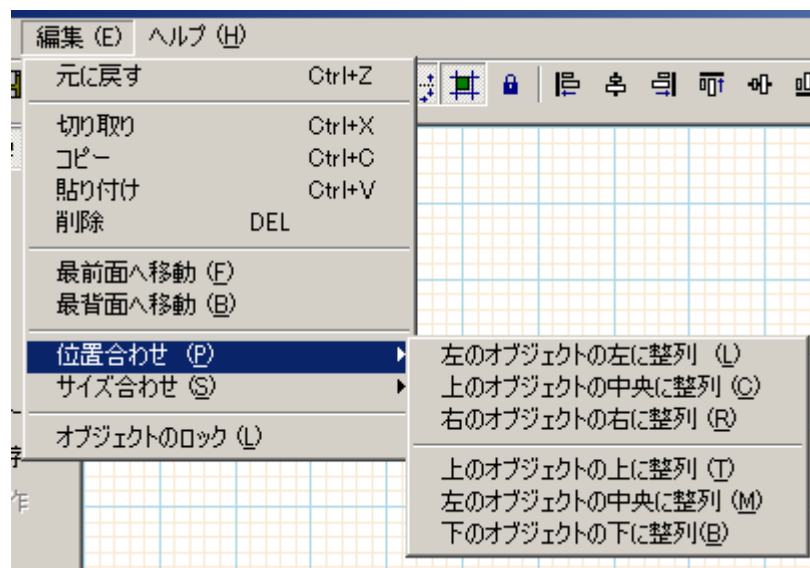


- ① 元に戻す
描画領域で直前に行った操作の結果を 1 回だけ元に戻す事が出来ます。元に戻す事が出来る状態の場合は、このツールバーがアクティブになっています。元に戻す事が出来ない場合は、このツールバーはグレースアウトしていません。プロパティグリッドにおいての設定変更は元に戻す事は出来ません。
- ② 切り取り
描画領域のオブジェクトをクリップボードへ転送します。複数のオブジェクトを同時に切り取ることも可能です。プロパティグリッド等で選択している値(数値等)には適用されません。なお、**Reports.net** のオブジェクトは、他のアプリケーションソフトへのペーストは出来ません。
- ③ コピー
描画領域のオブジェクトのコピーをクリップボードへ転送します。複数のオブジェクトを同時にコピーする事も可能です。プロパティグリッド等で選択している値(数値等)には適用されません。なお、**Reports.net** のオブジェクトは、他のアプリケーションソフトへのペーストは出来ません。
- ④ 貼り付け
クリップボードにあるオブジェクトを描画領域へ張り付けます。プロパティグリッド等で選択している値(数値等)には適用されません。なお、**Reports.net** 以外のオブジェクトは貼り付ける事が出来ません。**Reports.net** の別々のデザイナー間で、切り取り/コピー/貼り付けを行うことは可能です。
- ⑤ 削除
選択しているオブジェクトを削除します。
- ⑥ 最前面へ移動
選択しているオブジェクトを最前面へ移動します。

⑦ 最背面へ移動

選択しているオブジェクトを最背面へ移動します。

⑧ 位置合わせサブメニュー



1. 左のオブジェクトの左に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上座標が一番左にあるオブジェクトの X 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

2. 上のオブジェクトの中央に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、回転前の左上座標が一番上にある一番上にあるオブジェクトの回転前の中心を基準にして、オブジェクトを整列します。

3. 右のオブジェクトの右に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の右上が一番右にあるオブジェクトの右上の X 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

4. 上のオブジェクトの上に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上が一番上にあるオブジェクトの左上の X 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

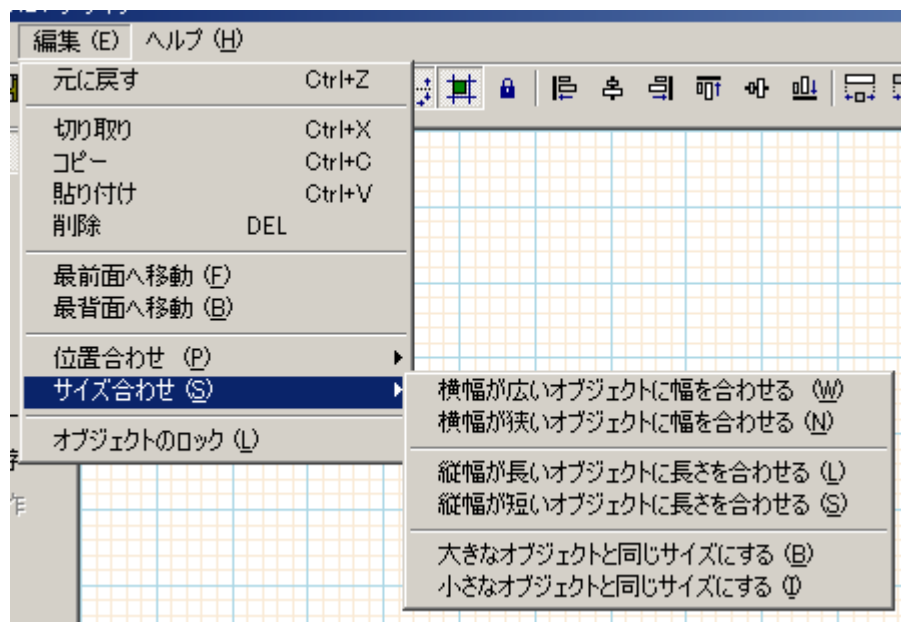
5. 左のオブジェクトの中央に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上が一番左にあるオブジェクトの垂直方向の中央の Y 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

6. 下のオブジェクトの下に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左下が一番下にあるオブジェクトの左下の Y 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

⑨ サイズ合わせサブメニュー



1. 横幅が広いオブジェクトに幅を合わせる

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の幅が一番広いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

2. 横幅が狭いオブジェクトに幅を合わせる

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の幅が一番狭いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

3. 縦幅が長いオブジェクトに長さを合わせる

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の縦幅が一番長いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

4. 縦幅が短いオブジェクトに長さを合わせる

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の縦幅が一番短いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

5. 大きなオブジェクトと同じサイズにする

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前のサイズが一番大きいオブジェクトの大きさを基準にしてオブジェクトの大きさ合わせます。

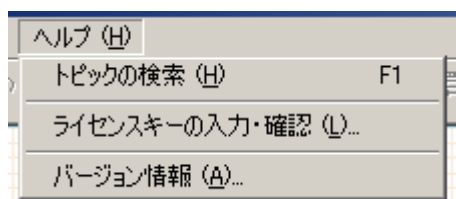
6. 小さなオブジェクトと同じサイズにする

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前のサイズが一番小さなオブジェクトの大きさを基準にしてオブジェクトの大きさ合わせます。

⑩ オブジェクトのロック

描画領域において、オブジェクトの移動及びサイズ変更が出来ない状態にします。この状態でオブジェクトを選択すると、選択を表すマークが白抜きになります。なお、ロックされた状態でも、プロパティグリッドでの設定変更や、描画領域における削除は可能です。[フォームのプロパティのオブジェクトのロック](#)及びです。[ツールバーのオブジェクトのロック](#)と連動しています。

3. 「ヘルプ(H)」メニュー

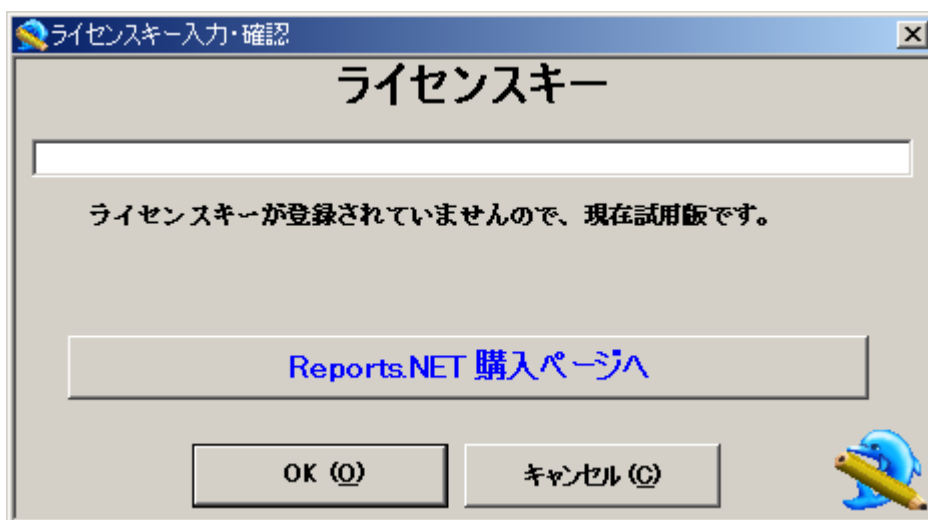


① トピックの検索

オンラインヘルプを表示します。

② ライセンスキーの入力・確認

「ライセンスキー入力・確認」画面が表示されます。この画面でライセンスキーの入力を行う事で、デザイナーを正式版として利用することが可能となります。



③ バージョン情報

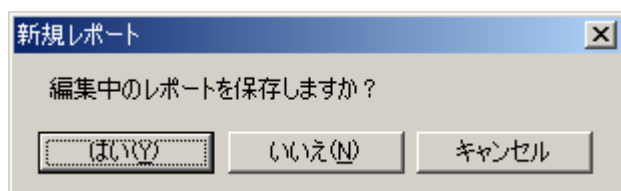
Reports.net デザイナーのバージョン情報を表示します。



(2) ツールバー

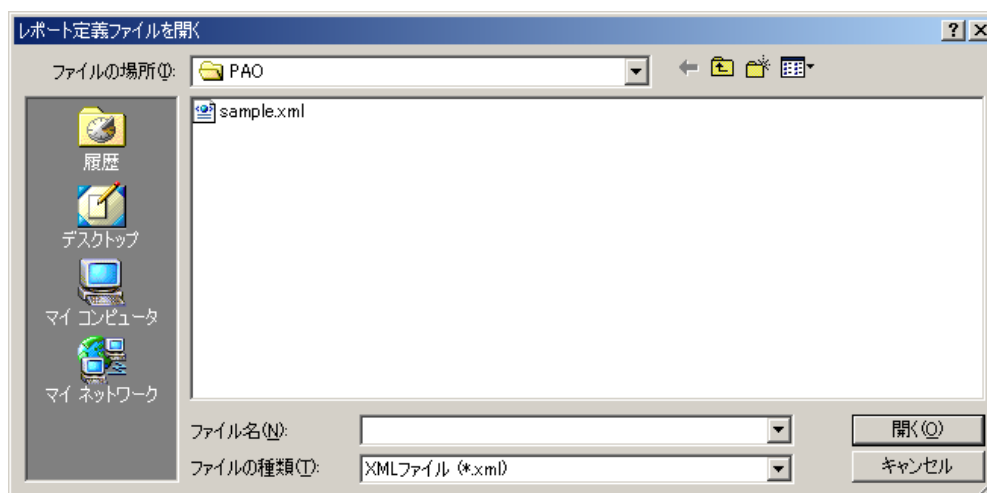
1. 新規レポート

新しいレポート定義ファイルを作成します。編集集中で保存していない状態のレポートがある場合には、編集集中のレポートを保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。



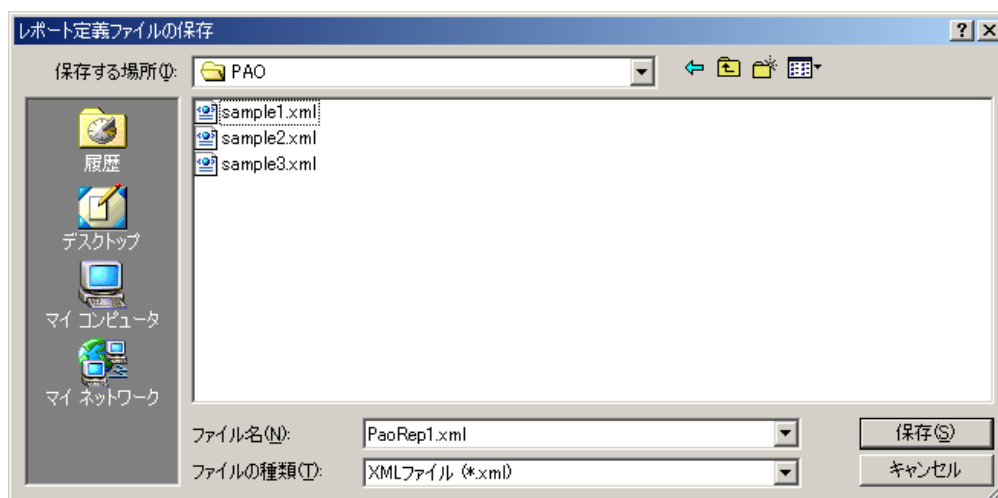
2. レポートを開く

既存のレポート定義ファイルを開きます。ファイル選択ダイアログボックスが表示されますので、開きたいレポート定義ファイルを指定する事により、レポートを開く事が出来ます。編集集中のファイルが保存されていない場合は、編集集中のレポートを保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。



3. レポートの上書き保存

レポート定義ファイルを上書き保存します。まだ名前をつけていない状態のファイル(新規で作成して1度も保存されていないファイル)を編集集中の場合は、ファイル選択ダイアログボックスが表示されます。保存したいファイル名を設定する事により、レポートを保存する事が出来ます。



4. レポートのプレビュー

プレビュー画面を表示します。プレビュー画面の操作については、「エンジン操作説明書」をご覧ください。


5. 元に戻す

描画領域で直前に行った操作の結果を 1 回だけ元に戻す事が出来ます。元に戻す事が出来る状態の場合は、このツールバーがアクティブになっています。元に戻す事が出来ない場合は、このツールバーはグレーアウトしています。プロパティグリッドにおいての設定変更は元に戻す事は出来ません。

元に戻せない状態時の表示 

6. 切り取り


描画領域のオブジェクトをクリップボードへ転送します。複数のオブジェクトを同時に切り取ることも可能です。プロパティグリッド等で選択している値(数値等)には適用されません。なお、Reports.net のオブジェクトは、他のアプリケーションソフトへのペーストは出来ません。

切り取り出来ない状態時の表示 

7. コピー

描画領域のオブジェクトのコピーをクリップボードへ転送します。複数のオブジェクトを同時にコピーする事も可能です。プロパティグリッド等で選択している値(数値等)には適用されません。なお、Reports.net のオブジェクトは、他のア

アプリケーションソフトへのペーストは出来ません。

コピー出来ない状態時の表示 


8. 貼り付け

クリップボードにあるオブジェクトを描画領域へ張り付けます。プロパティグリッド等で選択している値(数値等)には適用されません。なお、**Reports.net** 以外のオブジェクトは貼り付ける事が出来ません。**Reports.net**の別々のデザイナー間で、切り取り/コピー/貼り付けを行うことは可能です。

貼り付け出来ない状態時の表示 


9. 最前面へ移動

選択しているオブジェクトを最前面へ移動します。

最前面へ移動が出来ない状態時の表示 

10. 最背面へ移動


選択しているオブジェクトを最背面へ移動します。

最背面への移動が出来ない状態時の表示 

11. グリッドの表示


グリッドの表示を行っている状態時の表示 

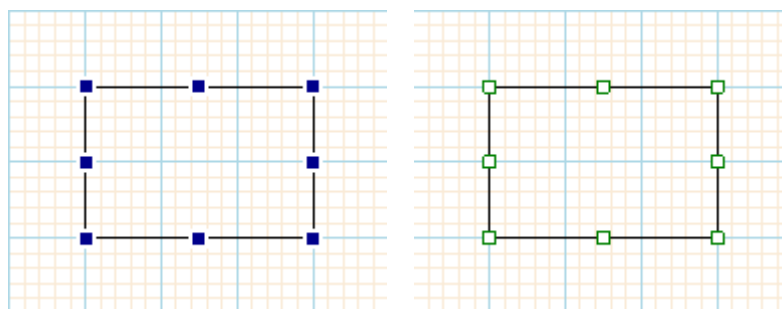
12. グリッドに合わせる

グリッドに合わせる状態時の表示 


13. オブジェクトのロック

描画領域において、オブジェクトの移動及びサイズ変更が出来ない状態にします。この状態でオブジェクトを選択すると、選択を表すマークが白抜きになります。なお、ロックされた状態でも、プロパティグリッドでの設定変更や、描画領域における削除は可能です。[フォームのプロパティのオブジェクトのロック](#)と連動しています。

オブジェクトのロックが有効な状態時の表示 




ロックされた状態での選択例 (右がロックされた状態)


14.  左のオブジェクトの左に整列


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上座標が一番左にあるオブジェクトのX座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

左のオブジェクトの左に整列が選択出来ない状態時の表示 


15.  上のオブジェクトの中央に整列


複数選択されたオブジェクトに対し、回転前の左上座標が一番上にある一番上にあるオブジェクトの回転前の中心を基準にして、オブジェクトを整列します。

上のオブジェクトの中央に整列が選択出来ない状態時の表示 

16.  右のオブジェクトの右に整列


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の右上が一番右にあるオブジェクトの右上のX座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

右のオブジェクトの右に整列が選択出来ない状態時の表示 

17.  上のオブジェクトの上に整列


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上が


一番上にあるオブジェクトの左上の X 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

上のオブジェクトの上に整列が選択出来ない状態時の表示 


18.  左のオブジェクトの中央に整列


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上が一番左にあるオブジェクトの垂直方向の中央の Y 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

左のオブジェクトの中央に整列が選択出来ない状態時の表示 

19.  下のオブジェクトの下に整列


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左下が一番下にあるオブジェクトの左下の Y 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

下のオブジェクトの下に整列が選択出来ない状態時の表示 

20.  横幅が広いオブジェクトに幅を合わせる


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の幅が一番広いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

横幅が広いオブジェクトに幅を合わせるが選択出来ない状態時の表示 

21.  横幅が狭いオブジェクトに幅を合わせる


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の幅が一番狭いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

横幅が狭いオブジェクトに幅を合わせるが選択出来ない状態時の表示 

22.  縦幅が長いオブジェクトに長さを合わせる


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の縦幅が一番長いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

縦幅が長いオブジェクトに幅を合わせるが選択出来ない状態時の表示 


23.  縦幅が短いオブジェクトに長さを合わせる


複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の縦幅が一番短いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

縦幅が短いオブジェクトに幅を合わせるが選択出来ない状態時の表示 


24.  大きなオブジェクトと同じサイズにする

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前のサイズが一番大きいオブジェクトの大きさを基準にしてオブジェクトの大きさ合わせます。

大きなオブジェクトと同じサイズにするが選択出来ない状態時の表示 

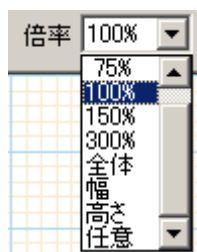
25.  小さなオブジェクトと同じサイズにする

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前のサイズが一番小さなオブジェクトの大きさを基準にしてオブジェクトの大きさ合わせます。

小さなオブジェクトと同じサイズにするが選択出来ない状態時の表示 

(3) 表示倍率

描画領域の表示倍率を選択します。ここで選択した倍率を、「フォーム」のプロパティ「11.表示倍率」に設定します。



50%,75%,100%,300%----指定した倍率でフォームの表示倍率を設定します。

全体-----描画領域の全体を表示領域に合わせる倍率を設定します。

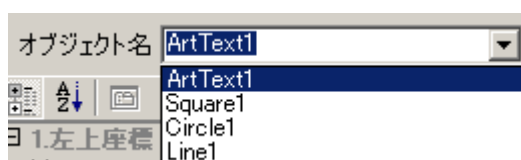
幅-----描画領域の幅を表示領域に合わせる倍率を設定します。

高さ-----描画領域の高さを表示領域に合わせる倍率を設定します。

任意-----フォームの表示倍率で任意の表示倍率を設定します。

(4) オブジェクト名

編集可能なコンボボックスです。描画領域でオブジェクトを1つだけ選択した場合、そのオブジェクトの名称が表示されます。オブジェクトの名称は自由に変更する事が可能です。また、コンボボックスからオブジェクトの名称を選択すると、描画領域でそのオブジェクトが選択された状態になります。(フォームには名前は設定出来ません。)



(5) 描画ツール

主に描画領域のオブジェクトを作成する為に使います。作成の操作方法については、[基本操作 i](#)を参照して下さい。

1. ポインタ ポインタ

描画領域でオブジェクトを選択、移動、サイズ変更する場合に用います。通常の編集時には選択された状態になっています。他の描画ツールを選択した状態から、ポインタに戻りたい場合にクリックする事で、他の描画ツールの選択状態を解除出来ます。操作方法については、[基本操作 ii~iv](#)を参照して下さい。

2. 文字 文字

「文字」オブジェクトを作成します。

3. 線 線

「線」オブジェクトを作成します。

4. 四角 四角

「四角」オブジェクトを作成します。

5. 円 円

「円」オブジェクトを作成します。

6. 画像 画像

「画像」オブジェクトを作成します。

7. バーコード バーコード

「バーコード」オブジェクトを作成します。

8. 装飾文字 装飾文字

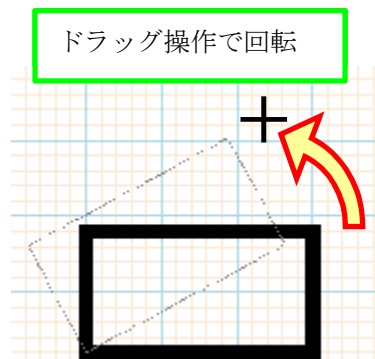
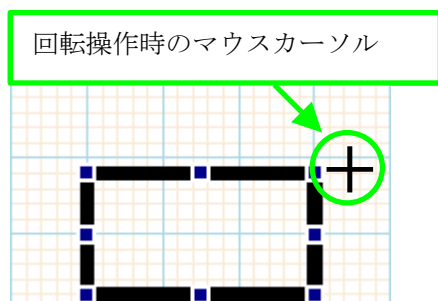
「装飾文字」オブジェクトを作成します。

9. 回転操作 回転操作

オブジェクトをマウス操作任意に回転します。オブジェクトを 1 つのみ選択した状態で、「回転操作」をクリックすると描画領域でのマウスカーソルが「+」に変化し、回転操作が可能な状態にします。描画領域でドラッグした距離に応じて、選択したオブジェクトが左下を中心に回転します。なお、複数選択している場合

は使えません。

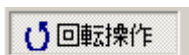
回転操作を行った場合の例



回転操作が行えない状態時の表示

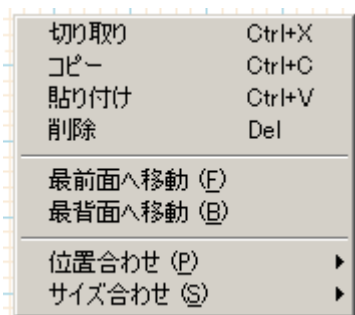


回転操作中の表示

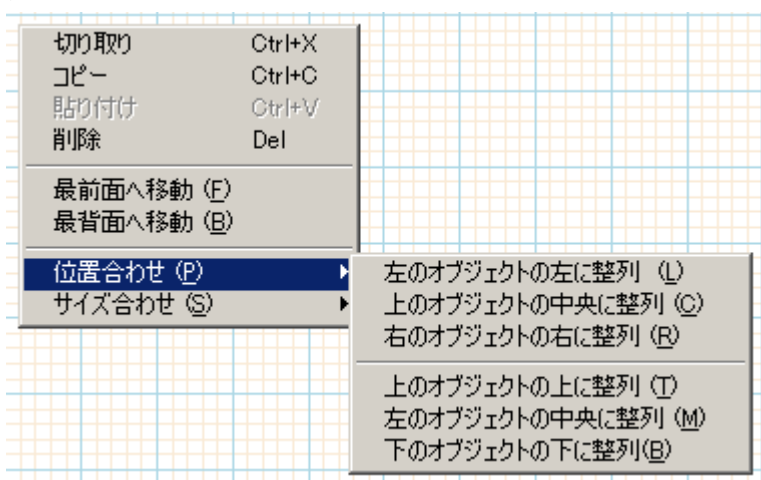


(6) コンテキスト(右クリック)メニュー

描画領域におけるコンテキストメニューで、オブジェクトに対する操作が行えます。全ての内容は1つ、もしくは、複数のオブジェクトを選択した状態で有効になります。



1. 切り取り
(ツールバーの説明と同じのを後から入れる。以下同じ)
なお、この操作にはショートカットキーとして「Ctrl+X」が設定されています。
2. コピー
なお、この操作にはショートカットキーとして「Ctrl+C」が設定されています。
3. 貼り付け
なお、この操作にはショートカットキーとして「Ctrl+V」が設定されています。
4. 削除
なお、この操作にはショートカットキーとして「Del」が設定されています。
5. 最前面へ移動
選択しているオブジェクトを最前面へ移動します。
6. 最背面へ移動
選択しているオブジェクトを最背面へ移動します。
7. 位置合わせサブメニュー



- ① 左のオブジェクトの左に整列
複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左

上座標が一番左にあるオブジェクトの X 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

② 上のオブジェクトの中央に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、回転前の左上座標が一番上にある一番上にあるオブジェクトの回転前の中心を基準にして、オブジェクトを整列します。

③ 右のオブジェクトの右に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の右上が一番右にあるオブジェクトの右上の X 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

④ 上のオブジェクトの上に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上が一番上にあるオブジェクトの左上の X 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

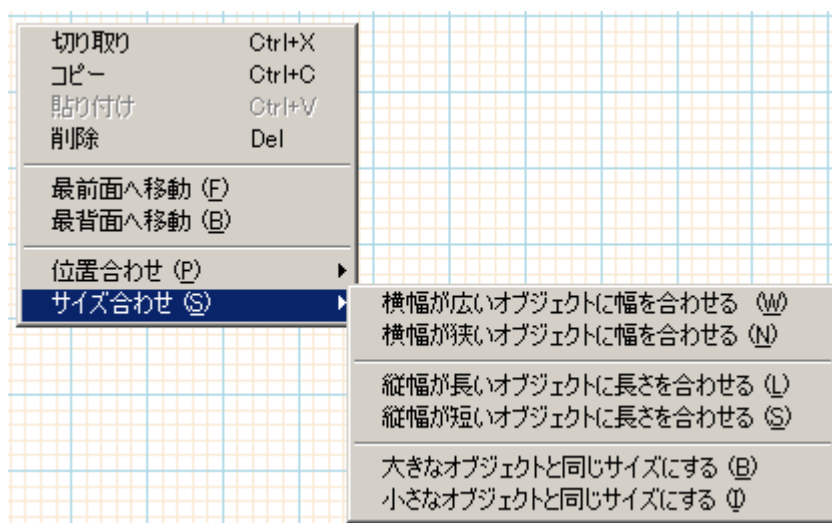
⑤ 左のオブジェクトの中央に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左上が一番左にあるオブジェクトの垂直方向の中央の Y 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

⑥ 下のオブジェクトの下に整列

複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の左下が一番下にあるオブジェクトの左下の Y 座標を基準にしてオブジェクトを整列します。

8. サイズ合わせサブメニュー



① 横幅が広いオブジェクトに幅を合わせる

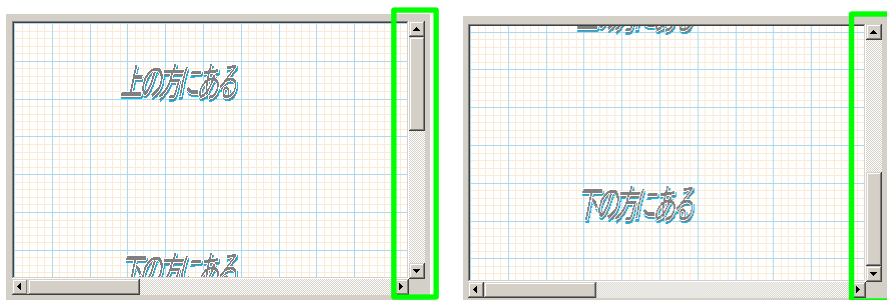
複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の幅

が一番広いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。

- ② 横幅が狭いオブジェクトに幅を合わせる
複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の幅が一番狭いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。
- ③ 縦幅が長いオブジェクトに長さを合わせる
複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の縦幅が一番長いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。
- ④ 縦幅が短いオブジェクトに長さを合わせる
複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前の縦幅が一番短いオブジェクトの幅を基準にしてオブジェクトの幅を合わせます。
- ⑤ 大きなオブジェクトと同じサイズにする
複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前のサイズが一番大きいオブジェクトの大きさを基準にしてオブジェクトの大きさ合わせます。
- ⑥ 小さなオブジェクトと同じサイズにする
複数選択されたオブジェクトに対し、それぞれのオブジェクトの回転前のサイズが一番小さなオブジェクトの大きさを基準にしてオブジェクトの大きさ合わせます。

(7) 描画領域

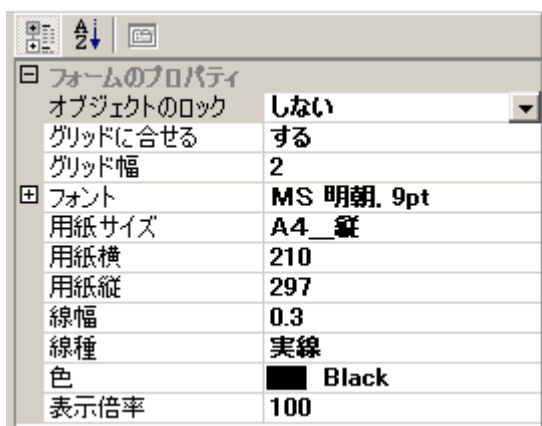
レポートを設計するための領域です。フォームと呼ばれる用紙が表示倍率に従って表示されます。画面の大きさにより、フォーム全体が表示されない場合は、水平及び垂直のスクロールバーにより表示領域の移動が可能です。



スクロール操作による描画領域表示位置の違いの例

(8) プロパティグリッド

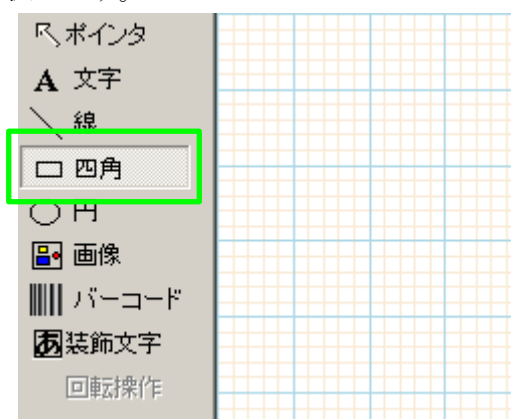
描画領域で選択されているオブジェクトのプロパティが表示されます。各プロパティは直接編集することが可能です。また、描画領域で何も選択されていない場合はフォーム(描画領域における用紙部分)のプロパティが表示されます。



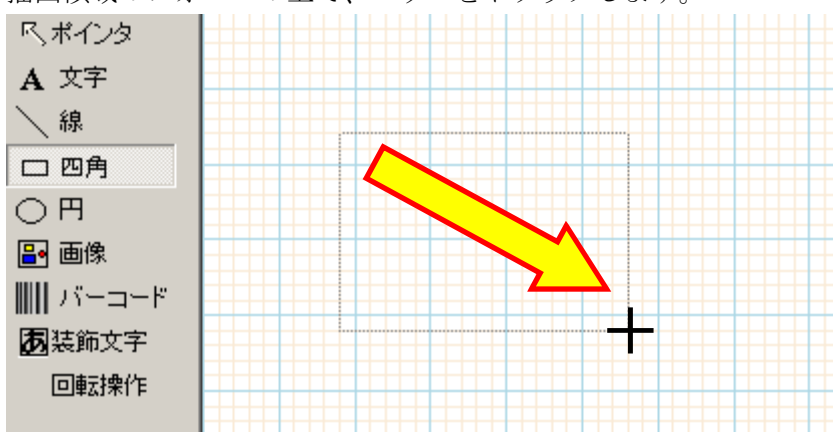
基本操作

i. オブジェクトの作成

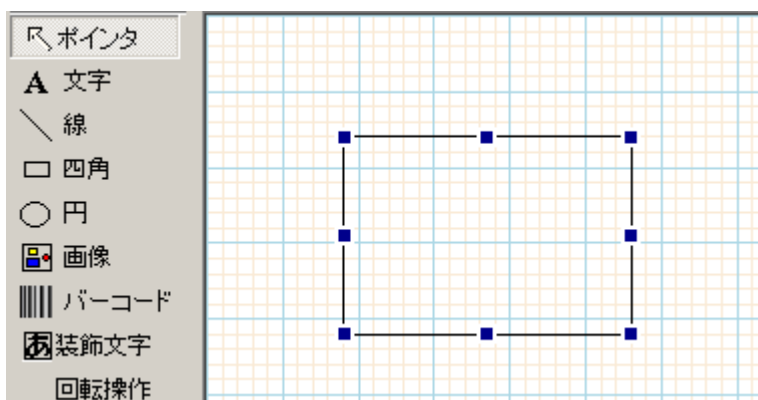
- ① 描画ツールでオブジェクト(「ポインタ」と「回転操作」以外のいずれか)を選択します。



- ② 描画領域のフォームの上で、マウスをドラッグします。



- ③ ドラッグを解除すると、ドラッグした大きさに応じてオブジェクトが作成されます。オブジェクト作成後には、描画ツールは自動的に「ポインタ」が選択された状態になり、作成したオブジェクトが選択された状態になります。

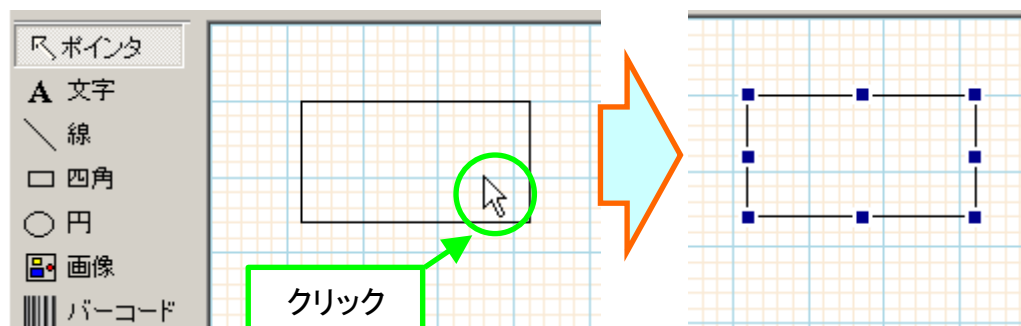


ii. オブジェクトの選択

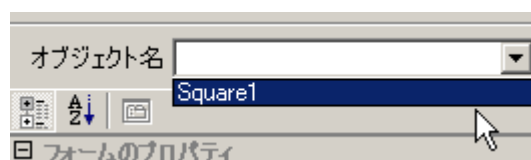
(ア) 単一オブジェクトの選択

単一オブジェクトを選択するには、以下の2通りの方法があります。

- ① 描画ツールで「ポインタ」を選択した状態で選択したいオブジェクトをマウスでクリックする



- ② 「オブジェクト名」で選択したいオブジェクトの名前を選択する。

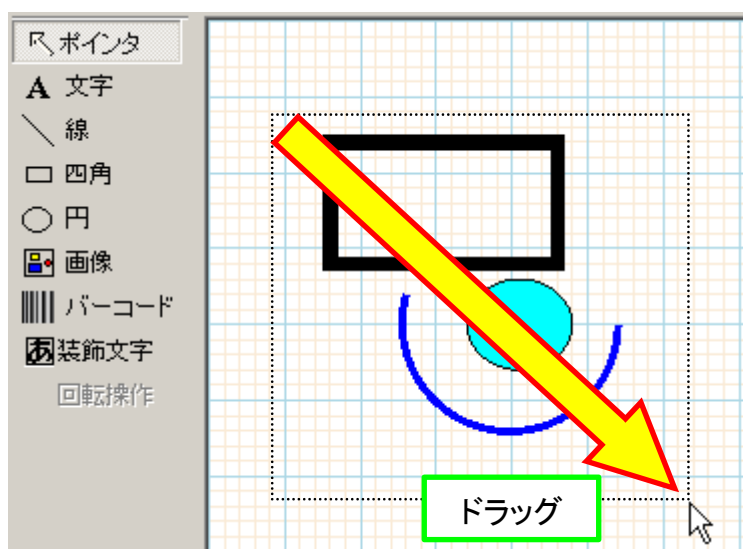


(イ) 複数オブジェクトの選択

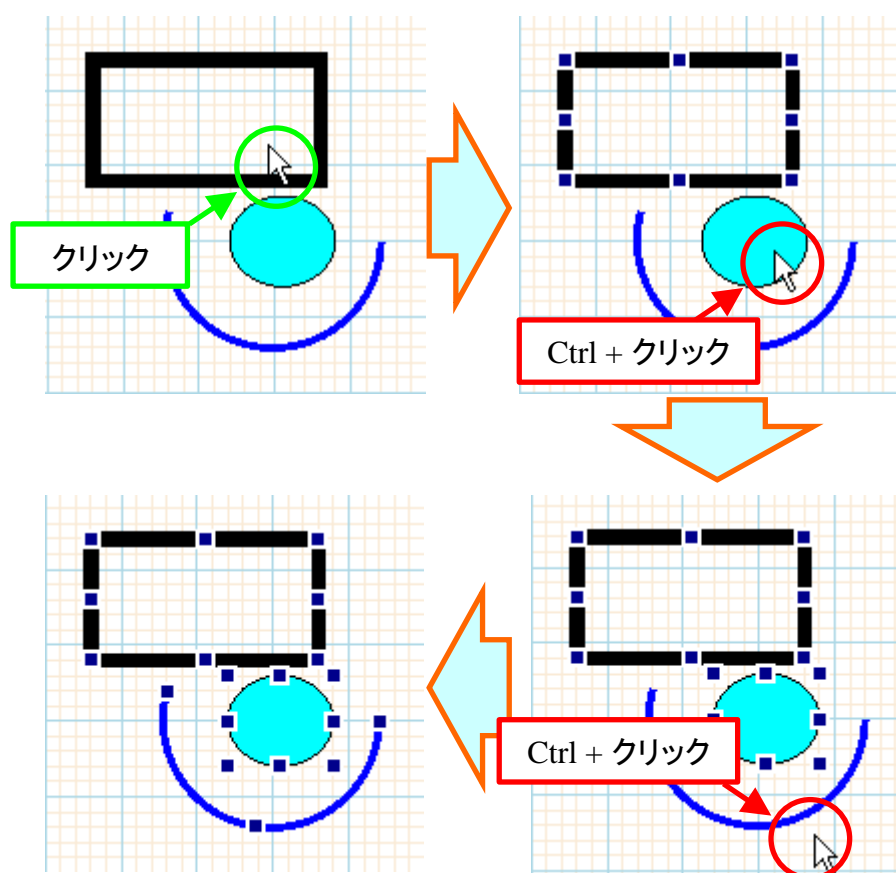
複数オブジェクトを選択するには、以下の2通りの方法があります。

- ① ラバーバンドで選択したいオブジェクトに触れる

オブジェクトがない場所からマウスをドラッグし、ラバーバンドで選択したいオブジェクトに触れます。ラバーバンドが一部でもオブジェクトに触れると選択されます。




- ② 「Ctrl」もしくは「Shift」を押しながらクリックする
2つ目以降のオブジェクトを選択する際、「Ctrl」もしくは「Shift」を押しながらクリックする事で複数オブジェクトを選択出来ます。また、一度選択したオブジェクトに対し、再度「Ctrl」もしくは「Shift」を押しながらクリックすると、そのオブジェクトの選択が解除されます。

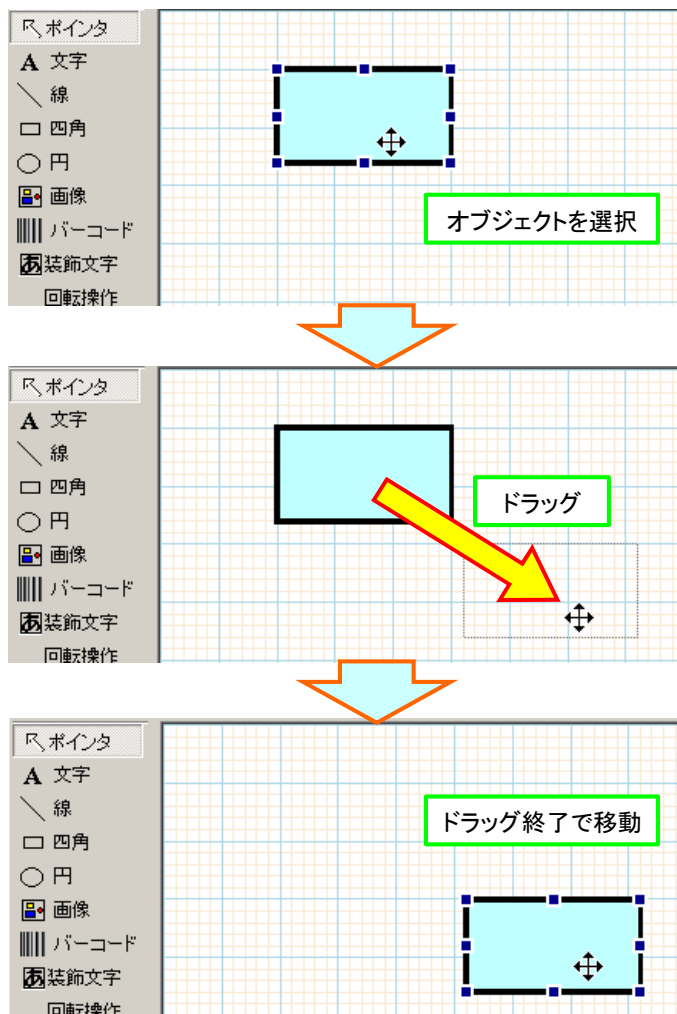


iii. オブジェクトの移動

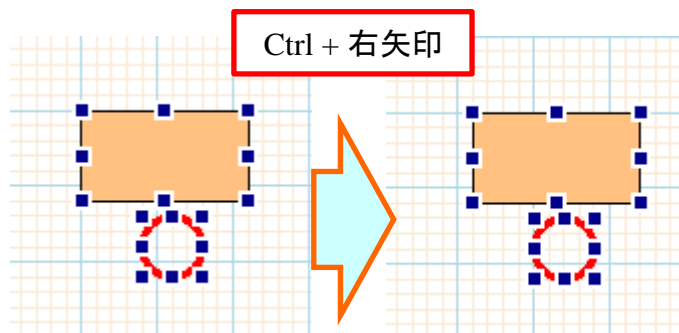
オブジェクトを移動するには、以下の 2 通りの方法があります。それぞれ、複数オブジェクトを選択した状態でも操作方法は同じです。

① 選択したオブジェクトをマウスでドラッグする

マウスカーソルが選択したオブジェクトを移動させる操作が可能な範囲(オブジェクトの内側)にある時、カーソルが「」(十文字矢印)になります。その状態でドラッグし、オブジェクトを移動します。



- ② キーボードから「Ctrl」+「矢印」で操作する
オブジェクトを選択し、キーボードから「Ctrl」+「矢印」を入力すると、オブジェクトが矢印の方向に移動します。この時の移動量は、「グリッドに合わせる」が設定されている場合はグリッド幅で、そうでない場合は0.1mm単位となります。

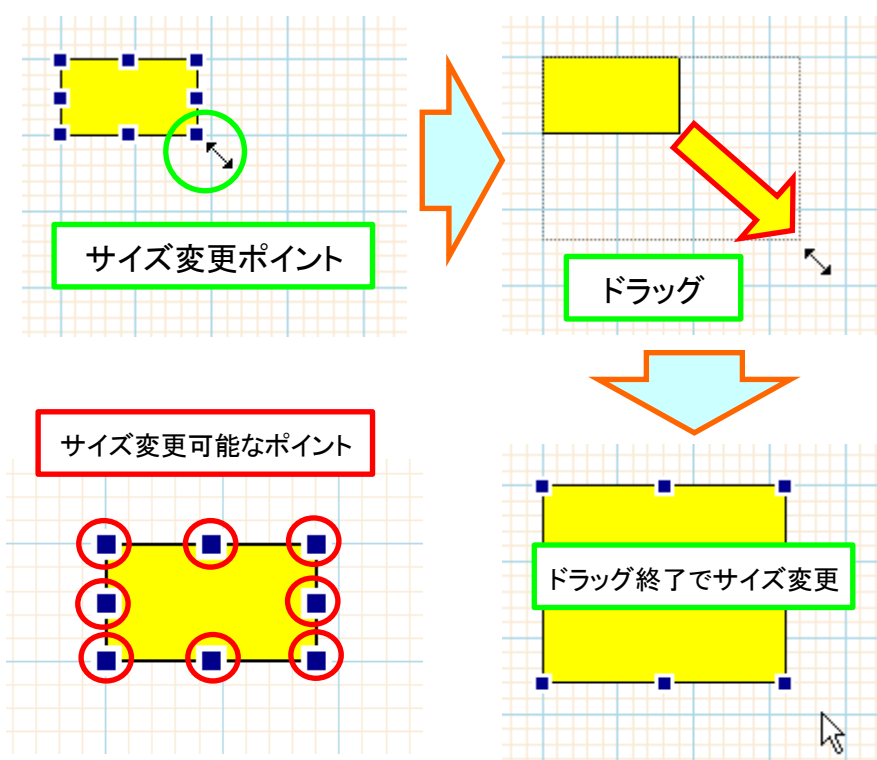


iv. オブジェクトのサイズ変更

オブジェクトのサイズを変更するには、以下の 2 通りの方法があります。①のマウスでの操作はオブジェクトを 1 つだけ選択している状態でのみ可能です。②のキーボードでの操作は、複数オブジェクトを選択した状態でも可能です。

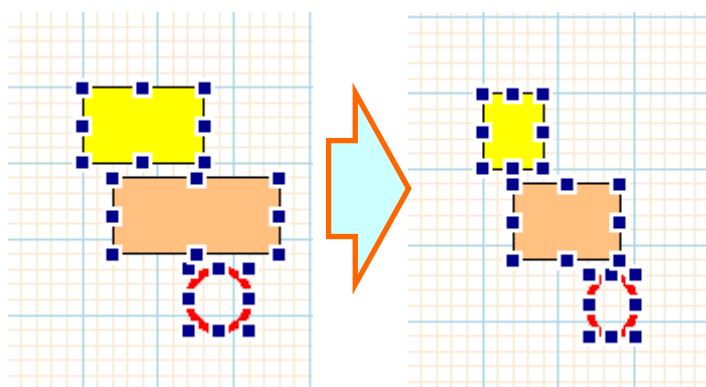
① 選択したオブジェクトをマウスでドラッグする

マウスカーソルが選択したオブジェクトのサイズを変更する操作が可能な範囲(オブジェクトの選択状態を示す四角形の上)にある時、カーソルが「↔」(一文字矢印)になります。その状態でドラッグし、オブジェクトのサイズを変更します。

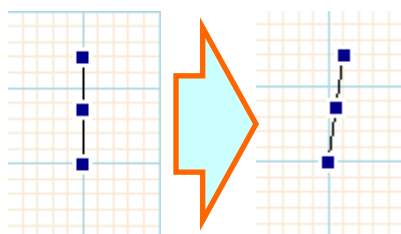


- ② キーボードから「Shift」+「矢印」で操作する
オブジェクトを選択し、キーボードから「Shift」+「矢印」を入力すると、水平方向の操作の場合はオブジェクトの右辺が、垂直方向の操作の場合はオブジェクトの下辺が矢印の方向に拡大/縮小します。この時の変更量は、「グリッドに合わせる」が設定されている場合はグリッド幅で、そうでない場合は0.1mm 単位となります。なお、オブジェクトが「直線」の場合は、終点が移動します。

Shift + 左矢印

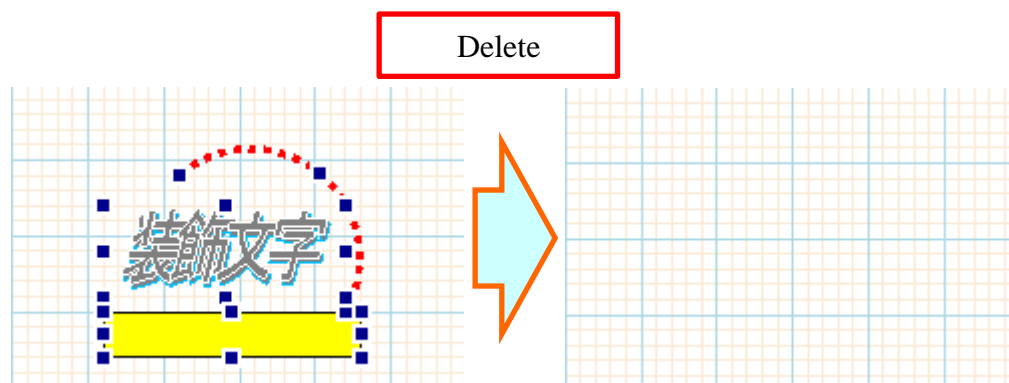


Shift + 右矢印



v. オブジェクトの削除

オブジェクトを選択した状態で「Delete」を入力する事により、オブジェクトを削除します。複数オブジェクトを一括して削除する事が出来ます。

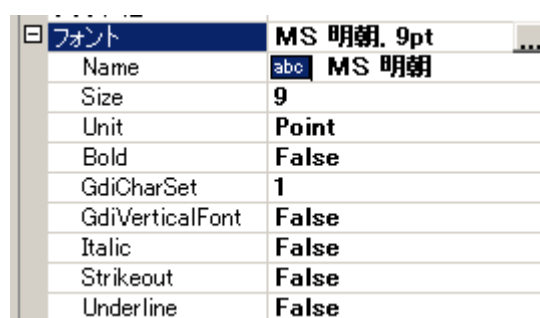


vi. プロパティグリッドでのフォント設定

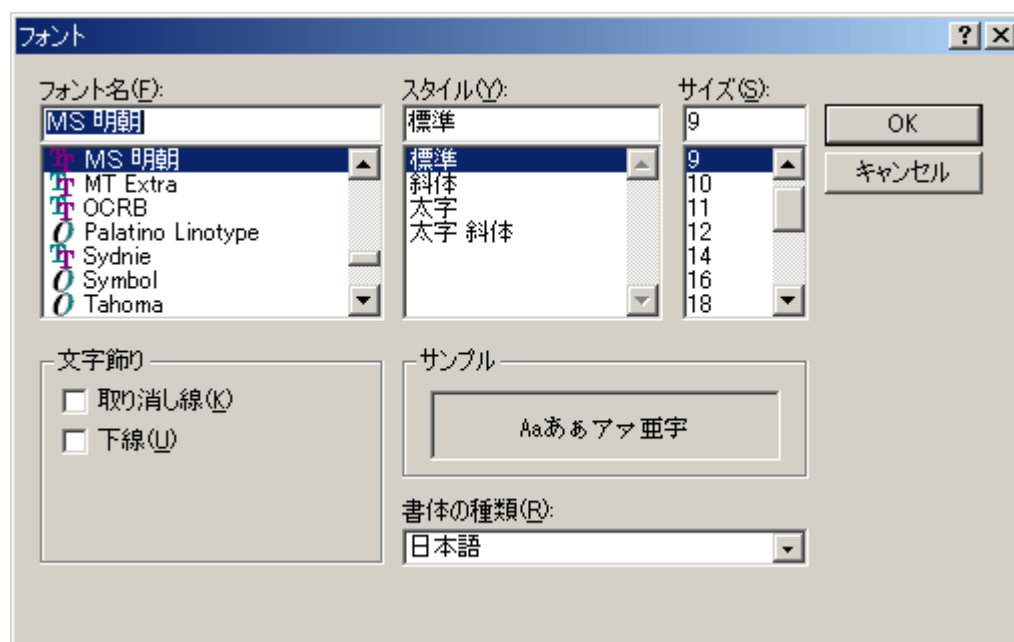
プロパティグリッドの「フォント」欄において、左側の「+」マークをクリックすると、詳細なプロパティが展開表示されます。また、右側の「...」ボタンをクリックすると、フォント選択ウインドウが表示され、詳細なフォント情報の設定が行えます。



通常表示状態



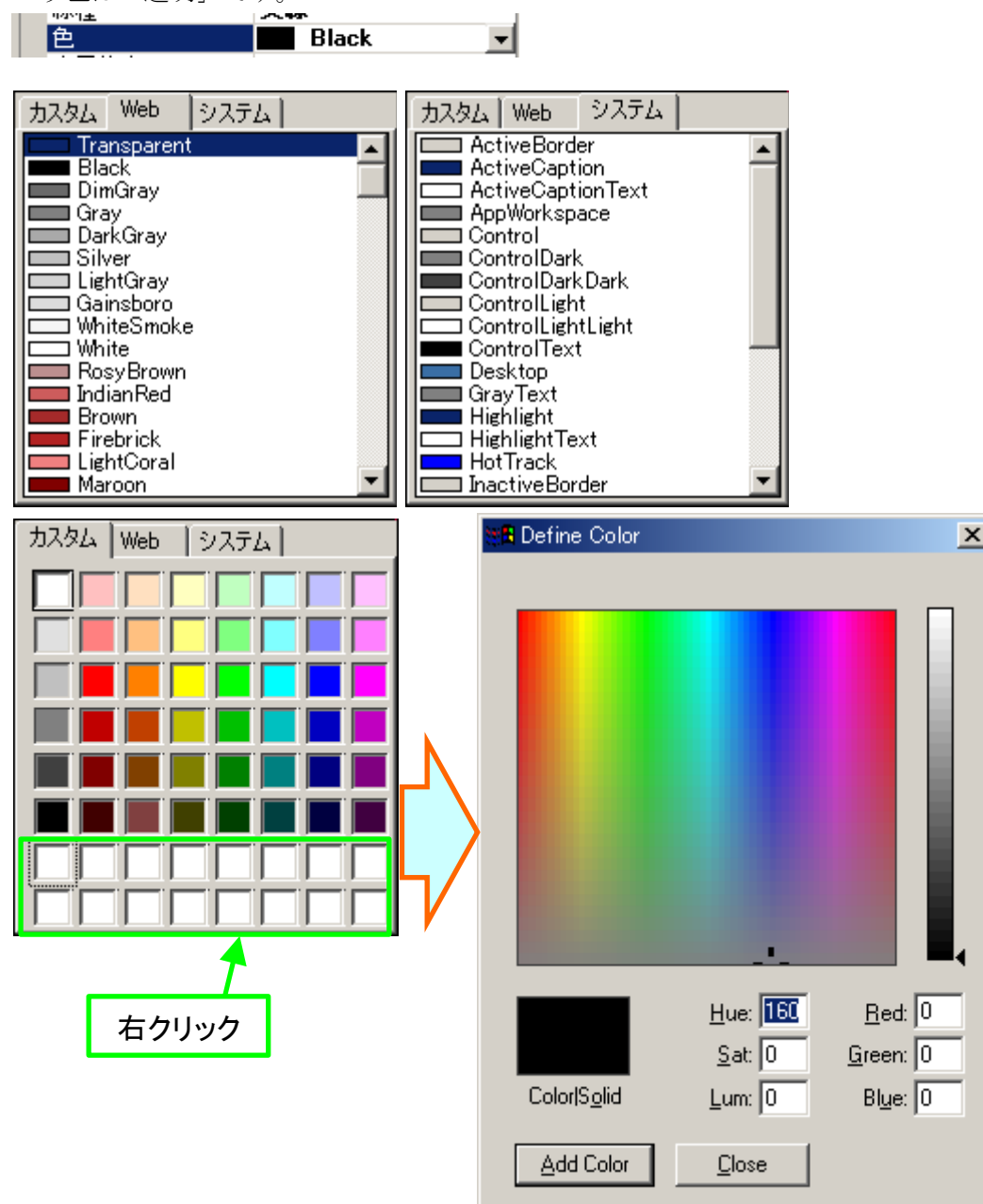
展開表示状態



フォント選択ウインドウ

vii. プロパティグリッドでの色設定

プロパティグリッドで「色」(線色や背景色等)を設定する欄において、右側の「▼」ボタンをクリックすると、色選択ダイアログボックスが表示されます。色選択ダイアログボックスは「カスタム」「Web」「システム」の3種類があり、カスタムの下2段については、マスを右クリックする事で「Define Color」ウインドウが表示され、独自の色を指定する事が出来ます。なお、「Web」で選択出来る「Transparent」という色は「透明」です。



viii. プロパティグリッドでの線種設定

プロパティグリッドで「線種」を設定する欄において、右側の「▼」ボタンをクリックすると、線種選択コンボボックスが表示されます。Reports.net で指定できる線種は「実線」「点線」「破線」「一点破線」「二点破線」の 5 種類があり、ここで選択した線種が設定されます。



上から順に「実線」「点線」「破線」「一点破線」「二点破線」です。

ix. プロパティグリッドでの塗り潰し設定

プロパティグリッドで「塗り潰し」を設定する欄において、「塗り潰しタイプ」の右側の「▼」ボタンをクリックすると、塗り潰し種類選択コンボボックスが表示されます。Reports.net で指定できる塗り潰し種類は「透明」「塗り潰し」「網掛け」の 5 種類があり、ここで選択したそれぞれの種類が適用されます。



(ア) 透明

オブジェクトを塗りつぶしません。(背景が透けて見えます。)

(イ) 塗り潰し

オブジェクトを「塗り潰す色」で塗り潰します。「塗り潰す色」の操作方法については、[基本操作 vii](#) を参照してください。

(ウ) 網掛け

オブジェクトに網掛けを設定します。設定できる値は、0(%) から 100(%)の値を設定して下さい。設定値によって、以下の様な網掛けが施されます。

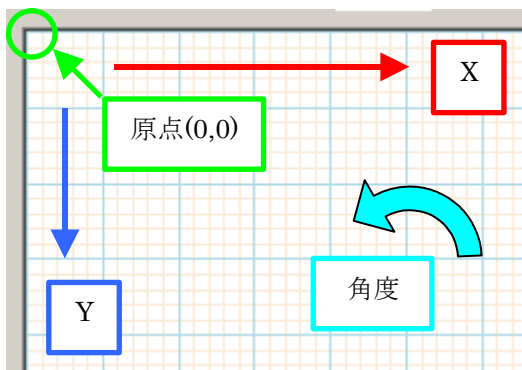
設定値	サンプル	割合
5以下		5%
10以下		10%
20以下		20%
25以下		25%
30以下		30%
40以下		40%
50以下		50%
60以下		60%
70以下		70%
75以下		75%
80以下		80%
100以下		90%

各オブジェクト

Reports.net のレポートで取り扱う部品を「オブジェクト」と呼びます。オブジェクトは全部で 8 種類です。それぞれには状態を表す「プロパティ」が設定されており、マウスでの操作やプロパティグリッドで値を設定する事が出来ます。

フォーム

フォームはオブジェクトを配置するための用紙です。1 種類のレポートに対して、必ず 1 つだけ存在し、削除する事は出来ません。左上が原点(0,0)で、水平方向右向きに X 座標、垂直方向下向きに Y 座標が定義されています。また、角度は水平方向右向きが 0 で、左回りが正です。



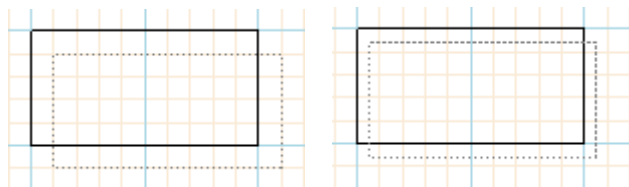
フォームのプロパティ	
オブジェクトのロック	しない
グリッドに合わせる	する
グリッド幅	2
フォント	MS 明朝, 9pt
用紙インチ指定	しない
用紙サイズ	任意
用紙横	254
用紙縦	297
線幅	0.3
線種	実線
色	■ Black
表示倍率	100

1. オブジェクトのロック

描画領域において、オブジェクトの移動及びサイズ変更が出来ない状態にします。この状態でオブジェクトを選択すると、選択を表すマークが白抜きになります。なお、ロックされた状態でも、プロパティグリッドでの設定変更や、描画領域における削除は可能です。[ツールバーのオブジェクトのロック](#)と連動しています。

2. グリッドに合わせる(する/しない)

各オブジェクトの作成及び移動時、グリッドに合わせる(吸着させる)かどうかを設定します。

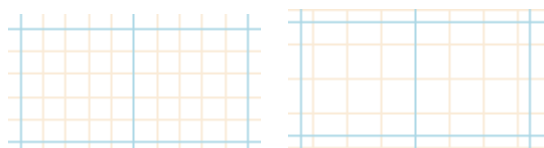


「する」を選択

「しない」を選択

3. グリッド幅(mm)

グリッドの幅を設定します。ここで設定した幅でグリッドがオレンジ色の格子模様で表現されます。青色の格子模様は 1cm 間隔で表示され、この間隔を変更する事は出来ません。



「2」を設定

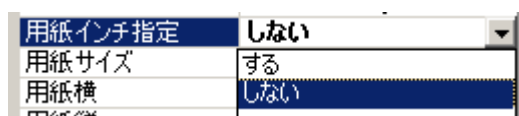
「3」を設定

4. フォント

「文字」オブジェクトを作成する場合の「フォント」の初期値となります。操作方法については、[基本操作 vi](#)を参照して下さい。

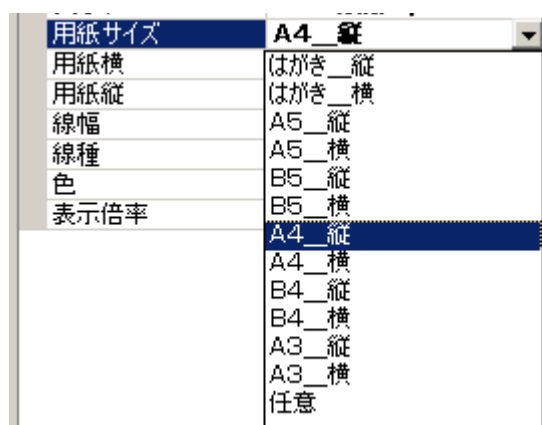
5. 用紙インチ指定

用紙のサイズをインチ(inch)で指定するかどうかを選択できます。「しない」の場合はミリメートル(mm)です。



6. 用紙サイズ

あらかじめ設定された用紙サイズを選択する事が可能です。ここで選択した用紙サイズに従い、「用紙横」と「用紙縦」を設定します。なお、ここで設定される用紙サイズは、プリンタの印刷可能領域等ではなく、あくまでもあらかじめ弊社が用意した基準となる用紙サイズからの設定となります。実際のレポート設計時には、余白等を考慮してデザインする様にして下さい。(ここでない用紙サイズの設定については、[Q&A](#)も参考にしてください。)



用紙サイズ	用紙横(mm)	用紙縦(mm)
はがき__縦	100	148
はがき__横	148	100
A 5 __縦	148	210
A 5 __横	210	148
B 5 __縦	182	257
B 5 __横	257	182
A 4 __縦	210	297
A 4 __横	297	210
B 4 __縦	250	354
B 4 __横	354	250
A 3 __縦	297	420
A 3 __横	420	297
任意	-----	-----

7. 用紙横(mm もしくは inch)

用紙の横の長さ設定します。この値を直接変更すると、用紙サイズは「任意」になります。ミリメートル(mm)の場合は 1(mm)単位で、インチ(inch)の場合は 0.01(inch)単位での指定が可能です。

8. 用紙縦(mm もしくは inch)

用紙の縦の長さを設定します。この値を直接変更すると、用紙サイズは「任意」になります。ミリメートル(mm)の場合は 1(mm)単位で、インチ(inch)の場合は 0.01(inch)単位での指定が可能です。

9. 線幅(mm)

「線」「四角」「円」の各オブジェクトを作成する場合の「線幅」の初期値となります。

10. 線種


「線」「四角」「円」の各オブジェクトを作成する場合の「線種」の初期値となります。
操作方法については、[基本操作 viii](#)を参照して下さい。

11. 色

「線」「四角」「円」の各オブジェクトを作成する場合の「線色」の初期値となります。
操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照して下さい。

12. 表示倍率(%)

描画領域の表示倍率を設定します。「(3)表示倍率」の選択肢にある倍率以外を設定した場合には、「(3)表示倍率」が「任意」になります。

繰返しオブジェクトの背景描画	
繰返し描画	しない
繰返し描画色	 Silver

13. 繰返し描画

帳票デザイン時のみ有効なプロパティです。それぞれの繰返しオブジェクトを繰返し回数分描画するかの指定です。「する」を指定すると、デザイン時に、表全体の高さがわかり、デザインがしやすくなるという利点を持っています。

14. 繰返し描画色

「繰返し描画」をする場合、繰返し分（の表の罫線など）を黒で表示してしまうとオブジェクトと繰返し分表示の区別がつきにくくなります。そのために繰返し分の表示色をプロパティとして用意しました。

15. 背景画像

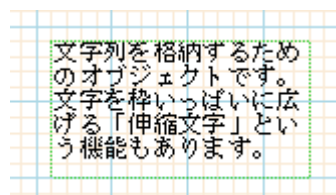
背景画像	
X	0
Y	0
画像サイズ	画像のサイズ
画像ファイル	<input type="text"/> (なし)
画像位置	左上
高さ	297
幅	210

デザイナーの背景に画像を貼ることができます。

現在運用中の紙帳票しかないような場合、その紙をスキャンして背景画像にして、帳票デザインを行うことができます。

文字

文字を格納するためのオブジェクトです。デザイナーでは、オブジェクトの外周に文字が収まる範囲の境界線として薄い緑色の枠が表示されますが、プレビュー及び印刷時にはこの枠線は表示(印刷)されません。描画領域で文字オブジェクトをダブルクリックすると、文字を入力するための子画面が開きます。



文字列を格納するためのオブジェクトです。文字を枠いっぱい広げる「伸縮文字」という機能もあります。

1.左上座標	
X	30
Y	20
2.サイズ	
幅	50
高さ	20
3.回転	
角度	0
4.文字	
フォント	MS 明朝. 9pt
文字位置	左
文字列	文字列
文字色	■ Black
5.背景	
背景の塗り潰し	しない
背景色	<input type="text"/>
6.伸縮文字	
アウトライン幅	0
アウトライン色	<input type="text"/>
伸縮自在	しない
繰返し	
列間	0
繰返し回数	0
行間	0

1. 左上座標
 - (ア) X(mm)

左上の X 座標を設定します。
 - (イ) Y(mm)

左上の Y 座標を設定します。
2. サイズ
 - (ア) 幅(mm)

幅を設定します。

(イ) 高さ(mm)

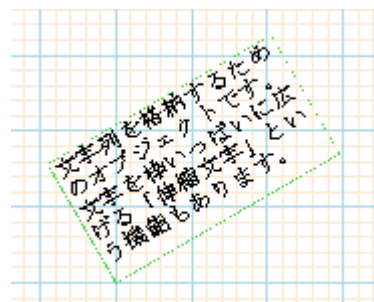
高さを設定します。

3. 回転

(ア) 角度(度)

左下を中心にした角度を設定します。-179度から180度までの範囲で設定できます。

1.左上座標	
X	60
Y	32
2.サイズ	
幅	34
高さ	18
3.回転	
角度	30



角度に「30」を設定した場合の例

4. 文字

(ア) 文字列

表示/印刷する文字列を設定します。描画領域でオブジェクトをダブルクリックすると、文字列を入力するための子画面が表示され、そこでの入力も可能です。

(イ) フォント

文字のフォントを設定します。操作方法については、[基本操作 vi](#)を参照して下さい。

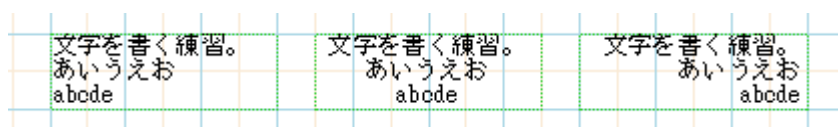
(ウ) 文字色

文字色を設定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照して下さい。

(エ) 文字横位置

文字の水平方向の配置を設定します。右側の「▼」ボタンをクリックして、どの位置を指定するかを選択します。

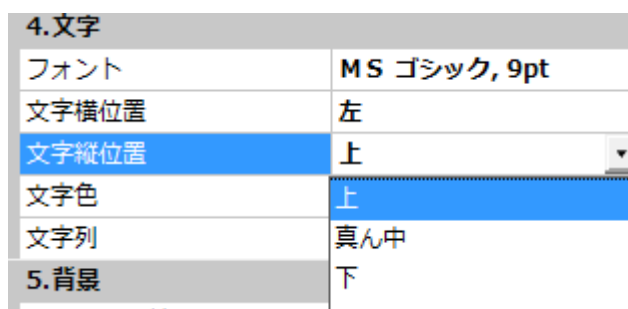
4.文字	
フォント	MS ゴシック, 9pt
文字横位置	左 ▼
文字縦位置	左
文字色	中央
文字列	右



左から「左」「中央」「右」に設定した例

(オ) 文字縦位置

文字の垂直方向の配置を設定します。右側の「▼」ボタンをクリックして、どの位置を指定するかを選択します。



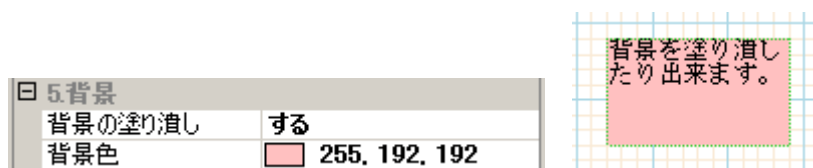
5. 背景

(ア) 背景の塗り潰し(する/しない)

「する」を選択した場合、オブジェクトの背景を「背景色」で指定された色で塗り潰します。

(イ) 背景色

オブジェクトを塗り潰す背景色を設定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照して下さい。



背景を塗り潰す設定にした例

6. 伸縮文字

(ア) 伸縮自在(する/しない)

「する」を選択した場合、オブジェクトの伸縮文字設定が有効になります。

(イ) アウトライン幅(mm)

文字のアウトライン(外枠)の太さを設定します。ただし、伸縮前に適用される幅のため、伸縮後には拡大/縮小されるため、実際の幅にはなりません。

(ウ) アウトライン色

文字のアウトラインの色を設定します。操作方法については、[基本操作 vii](#) を参照して下さい。

(エ) 指定桁数超え伸縮

通常は、伸縮なしのフォントで出力し、ここで指定した桁数を超えた場合、枠内で伸縮を行います。

(オ) 指定バイト数超え伸縮

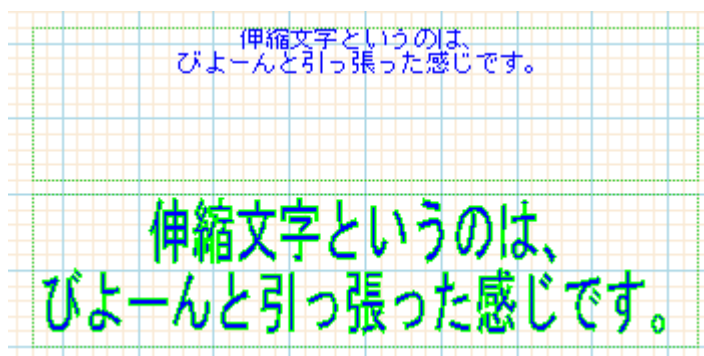
通常は、伸縮なしのフォントで出力し、ここで指定したバイト数を超えた場合、枠内で伸縮を行います。「指定桁数超え伸縮」では、実運用で機能不足でした。それを補うために追加したプロパティです。

(カ) フォント高さ固定

通常、伸縮を行うと、文字の高さもオブジェクト枠に合わせますが、このプロパティを指定すると、伸縮をしても、指定されているフォントの高さは維持します。文字の縦位置を中央や下にする場合と併用します。

6. 伸縮文字	
アウトライン色	<input type="checkbox"/>
アウトライン幅	0
フォント高さ固定	しない
指定バイト数超え伸縮	0
指定桁超え伸縮	0
伸縮自在	しない

上の文字列に対して、下は伸縮文字を設定した例



7. 均等割り付け

7.均等割り付け	
均等割り付け	しない
均等割対象外文字	
前後スペース数	0
前後自動均等割り	しない
半角カナは均等割り	する
半角を均等割り	しない

(ア) 均等割り付け(する/しない)

「する」を選択した場合、オブジェクトの均等割り付け設定が有効になります。

(イ) 半角を均等割り(する/しない)

「しない」を選択した場合、文字列内の半角文字については、均等割り付け対象外になります。

(ウ) 半角カナは均等割り(する/しない)

「半角を均等割り」しない指定にしていた場合でも、半角カナは均等割する時に使用するプロパティです。

(エ) 均等割対象外文字

半角以外にも均等割り付けしない文字がある場合、複数指定可能です。このプロパティで指定した文字列内のそれぞれの文字が均等割り付け対象外となります。

(オ) 前後自動均等割り(する/しない)

「する」を選択した場合、均等割り付け対象の文字列の前後に 1 文字ずつスペースが入っている状態で均等割り付けします。

(カ) 前後スペース数

このプロパティで指定したスペース分前後に余白を空けて均等割り付けします。

8. PDF 出力時

8.PDF出力時	
自動折返し	しない
縦はみ出しカット	しない

(ア) 自動折り返し(する/しない)

「する」を選択した場合、PDF 出力時、文字列をオブジェクトの枠内で自動折り返しして出力します。「しない」の場合、枠をはみ出して出力します。

(イ) 縦はみ出しカット

「自動折り返し」するの時に有効なプロパティです。
自動折り返した結果、縦の行が枠をはみ出した場合、文字列を枠内分まででカットするかどうかを指定します。

9. 繰返し

※2015/9 ver 7.0.0 以降 縦横両方向への繰返しが可能となりました。

それ以前は、行間・列間両方を指定すると斜めにオブジェクトを繰返していました。そのため「両方向繰返し：する／しない」プロパティが追加となっています。

(ア) 列間(mm)

繰返して生成するオブジェクトとの間の水平方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

(イ) 行間(mm)

繰返して生成するオブジェクトとの間の垂直方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

(ウ) 繰返し回数

プレビュー表示で繰返す回数を設定します。(※参照)

(エ) 繰返し回数_列

横方向へ繰返す回数を設定します。(※参照)

(オ) 両方向繰返し (する／しない)・・・ver 7.0 新機能

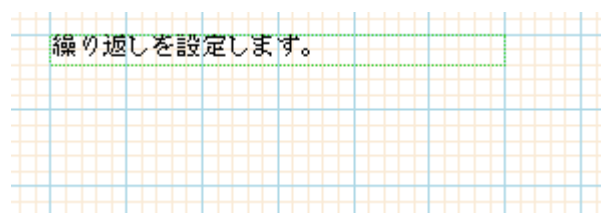
しない(規定値)：一方向にのみ繰返す。通常は行。

行間・列間が指定されていた場合右斜め下一方向に繰返す。

する：行間・列間で指定された縦横両方向へ繰返す。

POP ちらしや名刺など 1 枚に縦横同一フォーマットを用いる場合等にも有効。

日 繰返し	
繰返し回数	0
繰返し回数_列	0
行間	0
両方向繰返し	しない
列間	0



繰り返しを設定します。

繰り返しを設定します。

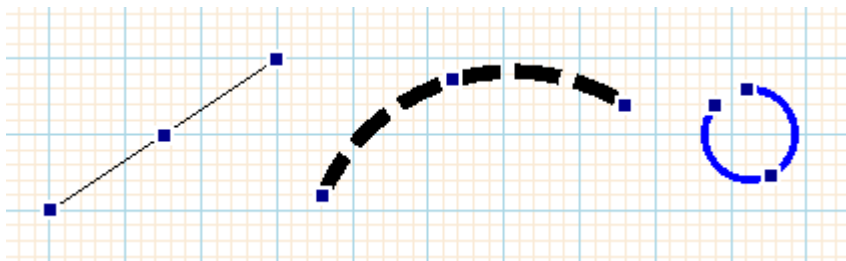
繰り返しを設定します。

繰返しを設定した例（下はプレビュー）

※ 繰返し回数は、あくまでもデザイン時に確認のためにプレビューでのみ有効な値です。プログラムで帳票を制御する場合、ここでの繰返し回数とは関係なく、プログラムから繰返し描画を行うことになります。

線

直線もしくは円弧を描くためのオブジェクトです。厚みが「0」の場合は直線となり、それ以外の場合は円弧となります。厚みは始点から終点方向へ向かって左側が正(プラス)、右側が負(マイナス)になります。



□ 1.始点座標	
X	66
Y	148
□ 2.終点座標	
終点X	106
終点Y	136
□ 3.線	
線幅	0.3
線種	実線
線色	Black
□ 4.円弧	
厚み	9.6
□ 繰返し	
列間	0
繰返し回数	0
行間	0

1. 始点座標
 - (ア) X(mm)
始点の X 座標を設定します。
 - (イ) Y(mm)
始点の Y 座標を設定します。
2. 終点座標
 - (ア) 終点 X(mm)
終点の X 座標を設定します。
 - (イ) 終点 Y(mm)
終点の Y 座標を設定します。
3. 線
 - (ア) 線幅(mm)
線の幅を設定します。
 - (イ) 線種

線の種類を指定します。操作方法については、[基本操作 viii](#) を参照してください。

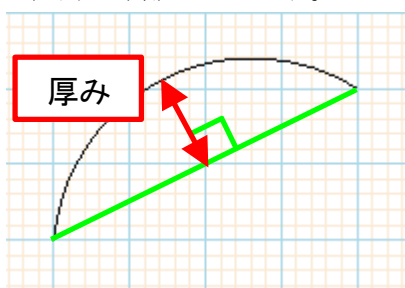
(ウ) 線色

線の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#) を参照してください。

4. 円弧

(ア) 厚み(mm)

厚みを 0 以外の値に設定すると、線は円弧になります。厚みは始点から終点方向へ向かって左側が正(プラス)、右側が負(マイナス)で、始点から終点の直線に対して直角の距離となります。



5. 繰返し

(ア) 列間(mm)

繰返して生成するオブジェクトとの間の水平方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

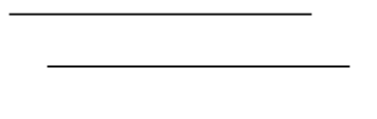
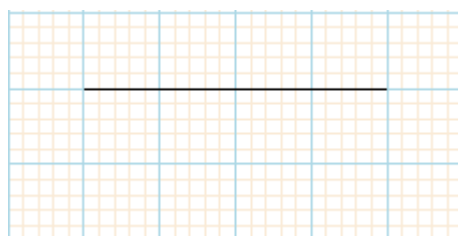
(イ) 繰返し回数

プレビューで繰り返す回数を設定します。(※参照)

(ウ) 行間(mm)

繰返して生成するオブジェクトとの間の垂直方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

日 繰返し	
列間	5
繰返し回数	3
行間	7

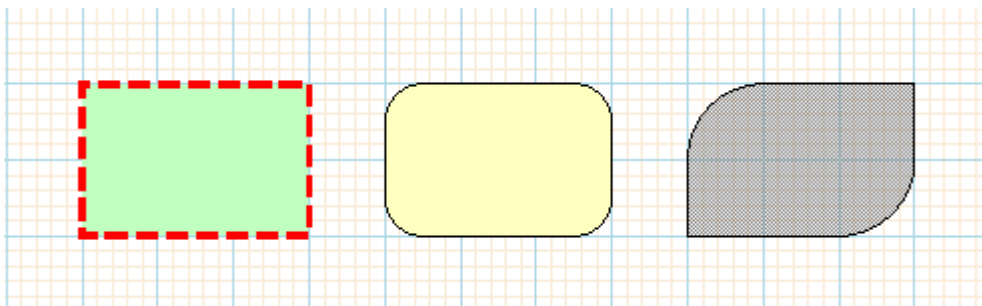


繰返しを設定した例(下右はプレビュー)

※ 繰返し回数は、あくまでもデザイン時に確認のためにプレビューでのみ有効な値です。プログラムで帳票を制御する場合、ここでの繰返し回数とは関係なく、プログラムから繰返し描画を行うことになります。

四角

四角を描くためのオブジェクトです。網掛けや角の丸みが指定できます。



□ 1.左上座標	
X	22
Y	20
□ 2.サイズ	
幅	46
高さ	22
□ 3.回転	
角度	0
□ 4.線	
線幅	0.3
線種	実線
線色	■ Black
□ 5.塗り潰し	
塗り潰しタイプ	透明
塗り潰す色	□
網掛け度	0
□ 6.角丸み	
角丸みR	0
角丸右上	あり
角丸右下	なし
角丸左上	なし
角丸左下	あり
□ 繰返し	
列間	0
繰返し回数	0
行間	0

1. 左上座標
 - (ア) X(mm)

左上の X 座標を設定します。
 - (イ) Y(mm)

左上の Y 座標を設定します。
2. サイズ
 - (ア) 幅(mm)

幅を設定します。

(イ) 高さ(mm)

高さを設定します。

3. 回転

(ア) 角度(度)

左下を中心にした角度を設定します。-179 度から 180 度までの範囲で設定できます。

4. 線

(ア) 線幅(mm)

線の幅を設定します。

(イ) 線種

線の種類を指定します。操作方法については、[基本操作 viii](#)を参照してください。

(ウ) 線色

線の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照してください。

5. 塗り潰し

(ア) 塗り潰しタイプ

塗り潰しのタイプを指定します。操作方法については、[基本操作 ix](#)を参照して下さい。

(イ) 塗り潰す色

塗り潰しを行う場合の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照してください。

(ウ) 網掛け度

網掛けを行う度合いを設定します。操作方法については、[基本操作 ix](#)を参照して下さい。

6. 角丸み

(ア) 角丸み R(mm)

角の丸みの半径を指定します。

(イ) 角丸右上(あり/なし)

回転前の四角の右上の頂点の角を丸くするかどうかを指定します。

(ウ) 角丸右下(あり/なし)

回転前の四角の右下の頂点の角を丸くするかどうかを指定します。

(エ) 角丸左上(あり/なし)

回転前の四角の左上の頂点の角を丸くするかどうかを指定します。

(オ) 角丸左下(あり/なし)

回転前の四角の左下の頂点の角を丸くするかどうかを指定します。

7. 繰返し

(ア) 列間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の水平方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

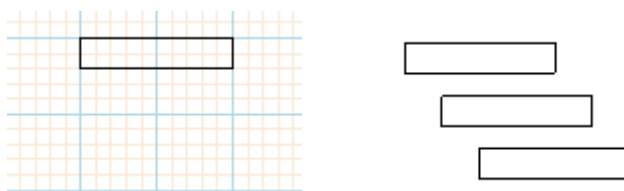
(イ) 繰返し回数

プレビューで繰り返す回数を設定します。(※参照)

(ウ) 行間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の垂直方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

繰返し	
列間	5
繰返し回数	3
行間	7

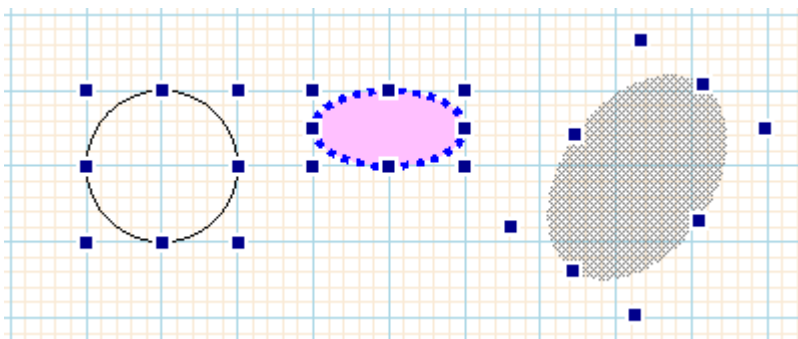


繰返しを設定した例 (右はプレビュー)

※ 繰返し回数は、あくまでもデザイン時に確認のためにプレビューでのみ有効な値です。プログラムで帳票を制御する場合、ここでの繰返し回数とは関係なく、プログラムから繰返し描画を行うことになります。

円

円または楕円を描くためのオブジェクトです。



□ 1.左上座標	
X	34
Y	50
□ 2.サイズ	
幅	28
高さ	16
□ 3.回転	
角度	0
□ 4.線	
線幅	0.3
線種	実線
線色	Black
□ 5.塗り潰し	
塗り潰しタイプ	透明
塗り潰す色	
網掛け度	0
□ 繰り返し	
列間	0
繰り返し回数	0
行間	0

1. 左上座標

(ア) X(mm)

左上の X 座標を設定します。

(イ) Y(mm)

左上の Y 座標を設定します。

2. サイズ

(ア) 幅(mm)

幅を設定します。

(イ) 高さ(mm)

高さを設定します。

3. 回転

(ア) 角度(度)

左下を中心にした角度を設定します。-179 度から 180 度までの範囲で設定できます。

4. 線

(ア) 線幅(mm)

線の幅を設定します。

(イ) 線種

線の種類を指定します。操作方法については、[基本操作 viii](#) を参照してください。

(ウ) 線色

線の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#) を参照してください。

5. 塗り潰し

(ア) 塗り潰しタイプ

塗り潰しのタイプを指定します。操作方法については、[基本操作 ix](#) を参照して下さい。

(イ) 塗り潰す色

塗り潰しを行う場合の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#) を参照してください。

(ウ) 網掛け度

網掛けを行う度合いを設定します。操作方法については、[基本操作 ix](#) を参照して下さい。

6. 繰返し

(ア) 列間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の水平方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

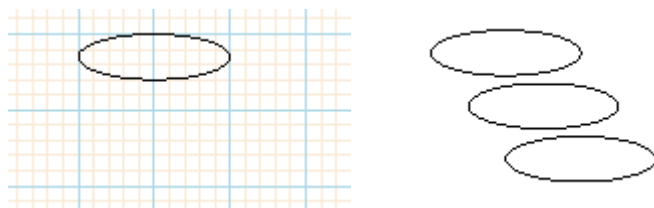
(イ) 繰返し回数

プレビューで繰り返す回数を設定します。(※参照)

(ウ) 行間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の垂直方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

日 繰返し	
列間	5
繰返し回数	3
行間	7

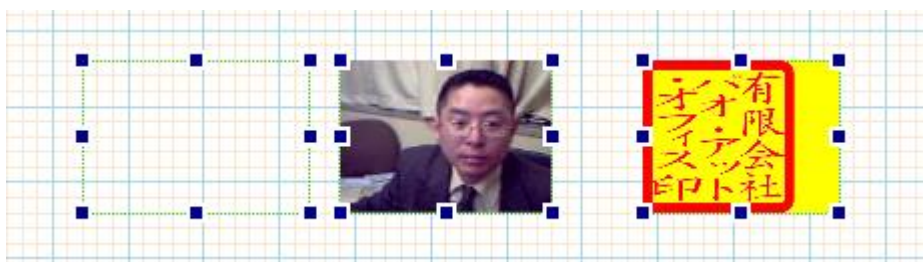


繰返しを設定した例（右はプレビュー）

※ 繰返し回数は、あくまでもデザイン時に確認のためにプレビューでのみ有効な値です。プログラムで帳票を制御する場合、ここでの繰返し回数とは関係なく、プログラムから繰返し描画を行うことになります。

画像

画像を格納するためのオブジェクトです。デザイナーでは、オブジェクトの外周に画像が収まる範囲の境界線として薄い緑色の枠が表示されますが、プレビュー及び印刷時にはこの枠線は表示(印刷)されません。なお、デザイナーで画像ファイルを指定して保存した場合、レポート定義ファイルには画像ファイルを **BASE64** でエンコードした形式で保存されます。レポート定義ファイルで画像ファイル名を指定したい場合は、レポート定義ファイルを直接編集して下さい。透過 GIF を用いると、背景が透けるため、印影等の利用も可能です。



□ 1.左上座標	
X	74
Y	16
□ 2.サイズ	
幅	28
高さ	14
□ 3.回転	
角度	0
□ 4.線	
線幅	0
線種	実線
線色	<input type="checkbox"/>
□ 5.背景	
背景の塗り潰し	しない
背景色	<input type="checkbox"/>
□ 6.画像	
画像サイズ	等比
画像ファイル	<input type="checkbox"/> (なし)
画像位置	左上
画像反転	反転しない
□ 繰り返し	
列間	0
繰り返し回数	0
行間	0

1. 左上座標

(ア) X(mm)

左上の X 座標を設定します。

(イ) Y(mm)

左上の Y 座標を設定します。

2. サイズ

(ア) 幅(mm)

幅を設定します。

(イ) 高さ(mm)

高さを設定します。

3. 回転

(ア) 角度(度)

左下を中心にした角度を設定します。-179度から180度までの範囲で設定できます。

4. 線

(ア) 線幅(mm)

線の幅を設定します。

(イ) 線種

線の種類を指定します。操作方法については、[基本操作 viii](#)を参照してください。

(ウ) 線色

線の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照してください。

5. 背景

(ア) 背景の塗り潰し(する/しない)

背景を塗り潰すかどうかを指定します。

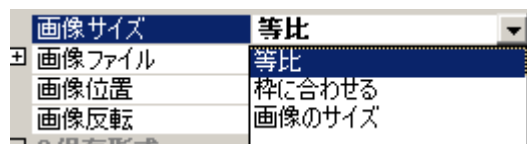
(イ) 背景色

背景の塗り潰しを行う場合の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照してください。

6. 画像

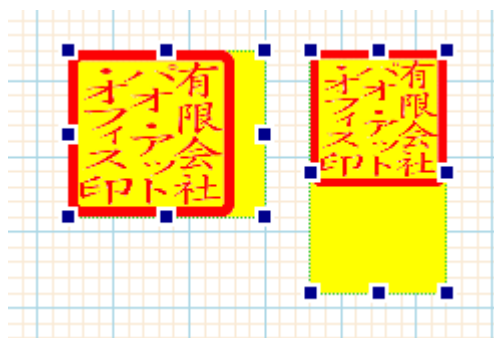
(ア) 画像サイズ

オブジェクトの大きさに対する画像のサイズを設定します。右側の「▼」ボタンをクリックして、どのサイズ形式を指定するかを選択します。



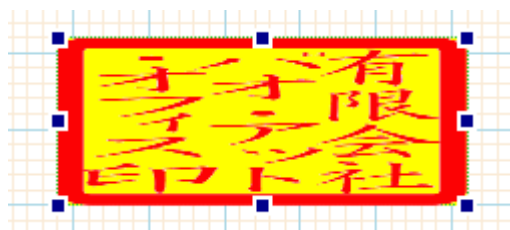
① 等比

画像の縦横の比率を変えずに、オブジェクトのサイズ一杯まで画像を伸縮します。



② 枠に合わせる

オブジェクトのサイズに合わせて画像を伸縮します。



③ 画像のサイズ

画像が本来持っているサイズで描画を行います。なお、この場合、デザイナーでの解像度とプリンタでの解像度(プレビュー時の解像度)が異なるため、それぞれで描画される大きさは一致しません。

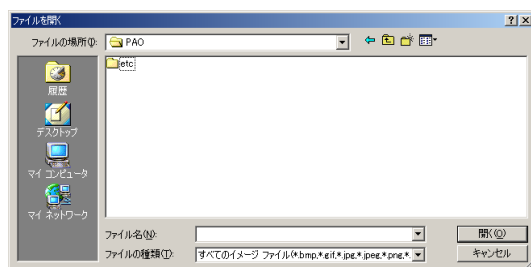


左:デザイナーでの表示 右:プレビューでの表示
比較用の縦線は常に同じ大きさになっています。

(イ) 画像ファイル

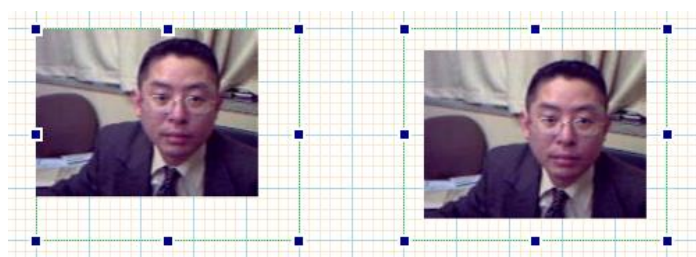
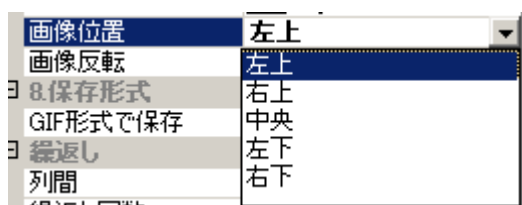
オブジェクトに格納する画像ファイルを指定します。右側の「...」ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログボックスが表示されますので、任意の画像を選択して下さい。





(ウ) 画像位置

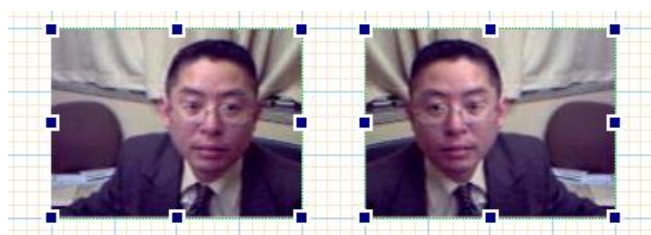
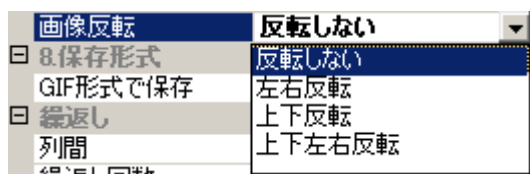
オブジェクトに対する画像の基準となる位置を設定します。右側の「▼」ボタンをクリックして、どのサイズ位置を基準とするかを選択します。



左:「左上」を設定 右:「中央」を設定

(エ) 画像反転

画像の反転を設定します。右側の「▼」ボタンをクリックして、どの反転を適用するかを選択します。



左:「反転しない」を設定 右:「左右反転」を設定

7. 繰返し

(ア) 列間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の水平方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

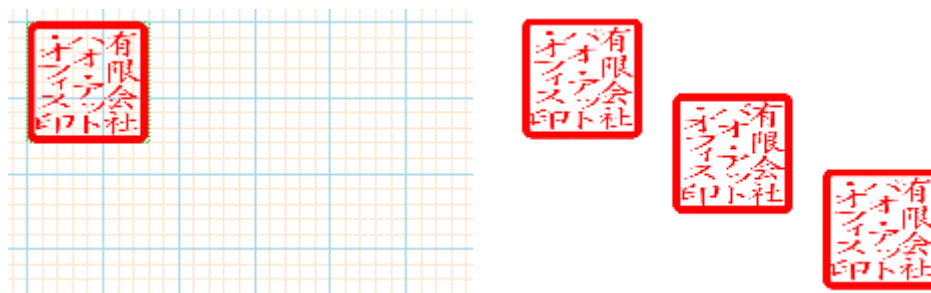
(イ) 繰返し回数

プレビューで繰り返す回数を設定します。(※参照)

(ウ) 行間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の垂直方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

繰返し	
列間	20
繰返し回数	3
行間	10

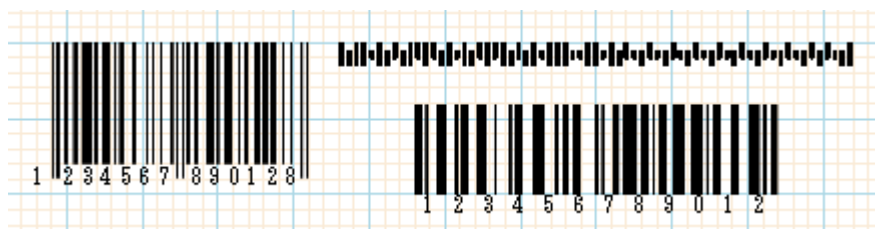


繰返しを設定した例 (右はプレビュー)

※ 繰返し回数は、あくまでもデザイン時に確認のためにプレビューでのみ有効な値です。プログラムで帳票を制御する場合、ここでの繰返し回数とは関係なく、プログラムから繰返し描画を行うことになります。

バーコード

バーコードを格納するためのオブジェクトです。Reports.net では 24 種類のバーコードの描画エンジンを搭載しています。



Barcode1	
0.オブジェクト名	
Name	Barcode1
1.左上座標	
X	6
Y	4
2.サイズ	
高さ	20
幅	74
3.回転	
角度	0
4.バーコード	
コード	あいうえお
スタート・ストップコード	しない
バーコード描画方法	全体幅以内ドット直接描画
黒バー調整	0
種類	Pdf417
添え字フォント	(なし)
添え字均等割付	する
添え字表示	する
白バー調整	0
文字列エンコーディング	UTF8
5.CODE128用	
コードセットABC	AUTO
6.郵便カスタマバーコード	
郵便カスタマポイント	8.5
7.QRコード用	
QRCodeエラー訂正レベル	M
QRCodeバージョン	10
8.DataMatrix用	
DataMatrixコードサイズ	DxSzAuto
9.PDF417用	
PDF417サイズ種別	AUTO
エラーレベル	2
エラーレベル自動決定	True
コード行数	5
コード列数	5
縦横アクセプト比	0.5
繰返し	
繰返し回数	0
繰返し回数 列	0

1. 左上座標
 - (ア) X(mm)

左上の X 座標を設定します。
 - (イ) Y(mm)

左上の Y 座標を設定します。
2. サイズ
 - (ア) 幅(mm)

幅を設定します。QR コードの場合通常、幅と高さは同一にします。
 - (イ) 高さ(mm)

高さを設定します。QR コードの場合通常、幅と高さは同一にします。
3. 回転
 - (ア) 角度(度)

左下を中心にした角度を設定します。-179 度から 180 度までの範囲で設定できます。
4. バーコード
 - (ア) コード

バーコードのコードを指定します。指定できる文字の種類はバーコードの種類により異なります。
 - (イ) スタート・ストップコード(する/しない)

バーコードのスタート・ストップコードを描画するかを指定します。バーコードの種類が、Code39/NW7 のときのみ有効です。
 - (ウ) バーコード描画方法

バーコードの描画方法を以下から選びます。

 - ・ 全体幅以内ドット直接描画
 - ・ 全体幅に縮小描画

直接描画は、指定幅以内に最大の幅長で直接描画します。
縮小描画は、指定幅ピッタリにいったん縮小して描画します。
直接描画の方が、描画精度・速度とも上ですが、ピッタリの幅にはなりにくいですし、プリンタの解像度(dpi)によってバーコードの大きさが異なります。
 - (エ) 黒バー調整

黒バーを微細調整するためのドット数を指定してください。
例えば、-1 を指定するとバーコード全体の黒バーの幅が、1 ドットずつ細くなります。

※この「黒バー調整」プロパティは、「全体幅以内ドット直接描画」の時にしか有効ではありません。
「全体幅に縮小描画」の時には無効です。ご注意ください。

(オ) 添字フォント

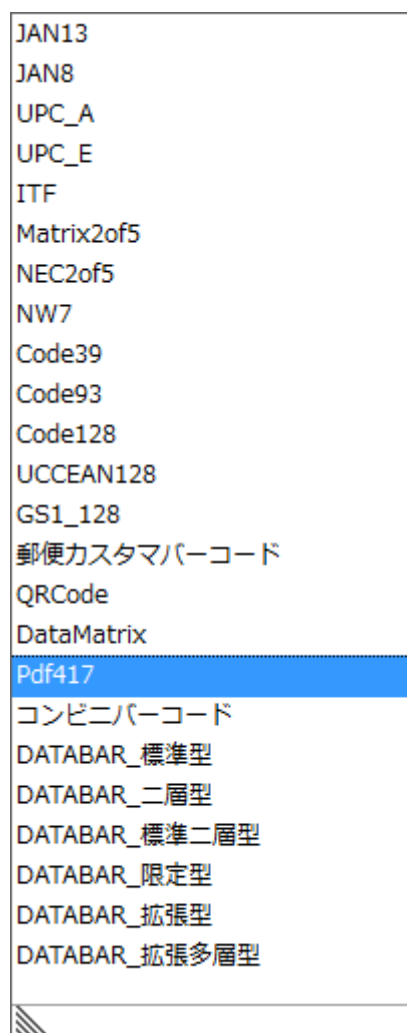
添字表示が「する」の場合に用いる添字のフォントを指定します。操作方法については、[基本操作 vi](#)を参照して下さい。

(カ) 添字表示(する/しない)

バーコードの下に添字を描画するかどうかを指定します。

(キ) 種類

バーコードの種類を指定します。右側の「▼」ボタンをクリックして、どの種類を指定するかを選択します。



(ク) 郵便カスタマポイント

郵便カスタマバーコードの場合のポイント指定します。8～11.5ポイントの数値が指定できます。

(ケ) CODE128 のコードセット

以下より選択します。デフォルトは、バーコード幅を一番狭く表示できる AUTO です。

AUTO / CODE-A / CODE-B / CODE-C

(コ) QRCode バージョン

QR コードのバージョンを指定します。1~40 ポイントの数値が指定できます。ただし、通常の携帯電話やバーコードリーダーで読み込むことが可能なバージョンは、15 までぐらいです。

(サ) QR コードエラー訂正レベル

QR コードのエラー訂正レベルを指定します。

L/M/Q/H のいずれかを選択します。

(シ) PDF417 サイズ種別

次より選択

AUTO / COLUMNS / ROWS / COLUMNS_AND_ROWS

AUTO: アスペクト比よりサイズを自動決定 (デフォルト)

COLUMNS: 指定された列数を基準にサイズを決定

ROWS: 指定された行数を基準にサイズを決定

COLUMNS_AND_ROWS: 列数: 行数を基準にサイズを決定

(ス) PDF417 エラーレベル

1~8 のエラー訂正レベル デフォルトは 5。

(セ) PDF417 エラーレベル自動決定

エラー訂正レベルを自動決定する / しない。「する」デフォルト。

「する」場合、サイズ等の情報から適正なエラー訂正レベルを決定する。

「しない」場合、(ス)で指定されたエラー訂正レベルとなる。

(ソ) PDF417 コード行数

サイズ種別で ROWS が有効の時、サイズの基準となるデータ行数を指定する。

(タ) PDF417 コード列数

サイズ種別で COLUMNS が有効の時、サイズの基準となるデータ列数を指定する。

(チ) PDF417 縦横アスペクト比

PDF417 縦横のアスペクト比 (0.5 / 1.0 / 2.0 等) デフォルトは、0.5。

※1.0 で正方形。

(ツ) DataMatrix シンボルコードサイズ

デフォルトは、AUTO で文字数等から自動決定される。

AUTO 以外にも固定サイズを考慮し、次に示すように多くのサイズが可能。

AUTO / 10x10~144x144 / 8x18~16x48

5. 繰返し

(ア) 列間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の水平方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

(イ) 繰返し回数

プレビューで繰り返す回数を設定します。(※参照)

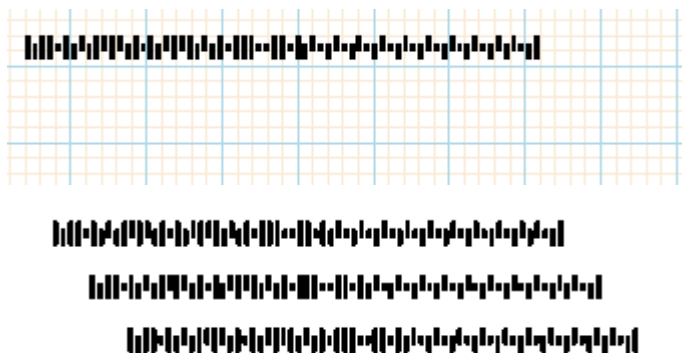
(ウ) 繰返し回数_列

両方向に繰り返す場合、列の繰り返し回数を設定します。(※参照)

(エ) 行間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の垂直方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

日 繰返し	
列間	5
繰返し回数	3
行間	7



※繰返しを設定した例 (下はプレビュー)

(オ) 両方向繰返し

行・列の両方向に繰り返すか?を指定。

デフォルト「しない」の場合、前述した通りとなるが、

「する」を指定した場合、次のように両方向へ繰り返す。表や POP 等 1 枚に同じレイアウトを縦横 4 組作成する場合等に有効。

繰返し	
繰返し回数	3
繰返し回数_列	2
行間	7
両方向繰返し	する
列間	90

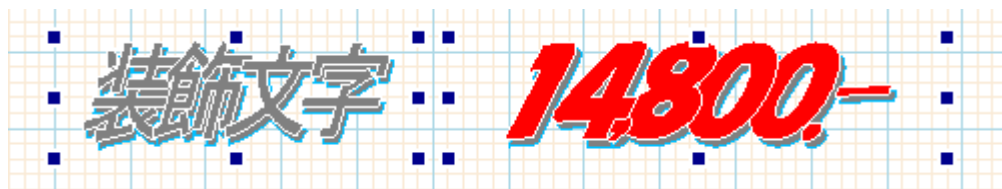


※ 繰返し回数は、あくまでもデザイン時に確認のためのプレビューでのみ有効な値です。プログラムで帳票を制御する場合、ここでの繰返し回数とは関係なく、プログラムで Write()処理を行った分、描画を行うことになります。

行間や列間は、ここでの設定が生きます。

装飾文字

装飾文字を描くためのオブジェクトです。描画領域で装飾文字オブジェクトをダブルクリックすると、文字を入力するための子画面が開きます。なお、装飾文字では改行は出来ません。



1.左上座標 X 10 Y 8		9.反転 上下反転 しない 左右反転 しない	
2.サイズ 幅 48 高さ 16		A.斜体 斜体_横 -0.35 斜体_縦 0 斜体による伸縮 する	
3.回転 角度 0		B.影 影X位置 1.5 影Y位置 1.5 影付による伸縮 しない 影文字色 Gray 影枠線幅 0.3 影枠線色 DeepSkyBlue	
4.文字 文字フォント名 MS ゴシック 文字列 装飾文字 文字列縦書き しない 文字列逆転 しない 文字回転角度 0 文字太字 する 文字色 Gray		繰返し 列間 0 繰返し回数 0 行間 0	
5.背景 背景の塗り潰し しない 背景色 <input type="checkbox"/>			
6.文字アウトライン アウトライン幅 0.3 アウトライン色 <input type="checkbox"/> White			
7.文字重ね 重ね右前 しない 重ね率 40			
8.桁区切り重ね 桁区切り対象文字 -- 桁区切り重ね処理 する 桁区切り重ね率_前 0 桁区切り重ね率_後 40			

1. 左上座標

(ア) X(mm)

左上の X 座標を設定します。

(イ) Y(mm)

左上の Y 座標を設定します。

2. サイズ

(ア) 幅(mm)

幅を設定します。

(イ) 高さ(mm)

高さを設定します。

3. 回転

(ア) 角度(度)

左下を中心にした角度を設定します。-179度から180度までの範囲で設定できます。

4. 文字

(ア) 文字フォント名

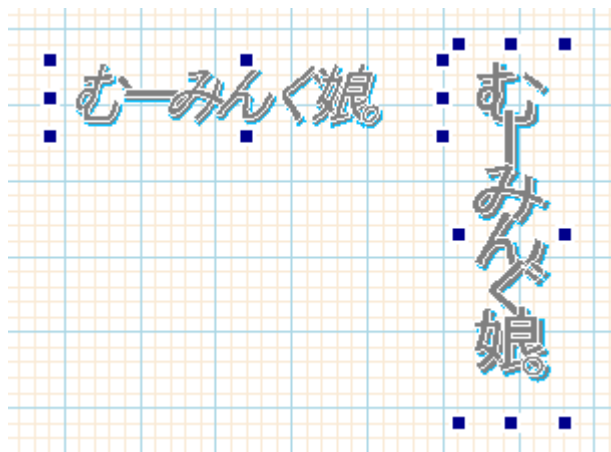
文字のフォント名を設定します。右側の「▼」ボタンをクリックすると、選択できるフォントの一覧が表示されます。

(イ) 文字列

表示/印刷する文字列を設定します。描画領域でオブジェクトをダブルクリックすると、文字列を入力するための子画面が表示され、そこでの入力も可能です。

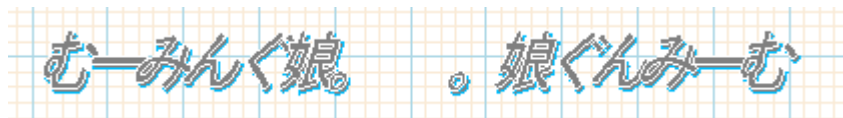
(ウ) 文字列縦書き(する/しない)

文字列を縦書きにするかどうかを指定します。



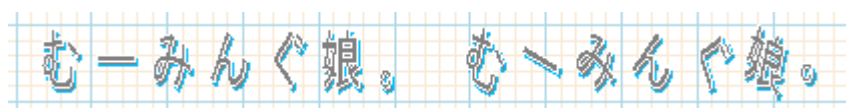
(エ) 文字列逆転(する/しない)

文字列を逆転するかどうかを指定します。



(オ) 文字回転角度

個々の文字を回転させる角度を指定します。



(カ) 文字太字(する/しない)

文字を太字にするかどうかを指定します。

(キ) 文字色

文字の色を設定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照して下さい。

5. 背景

(ア) 背景の塗り潰し(する/しない)

背景を塗り潰すかどうかを指定します。

(イ) 背景色

背景の塗り潰しを行う場合の色を指定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照してください。

6. 文字アウトライン

(ア) アウトライン幅(mm)

文字のアウトライン(外枠)の太さを設定します。ただし、伸縮前に適用される幅のため、伸縮後には拡大/縮小されるため、実際の幅にはなりません。

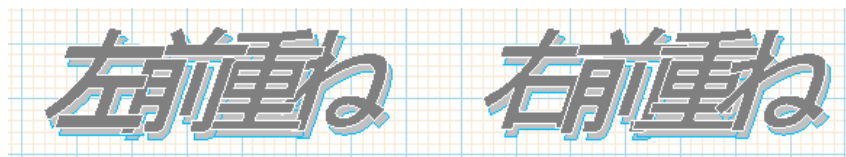
(イ) アウトライン色

文字のアウトラインの色を設定します。操作方法については、[基本操作 vii](#)を参照してください。

7. 文字重ね

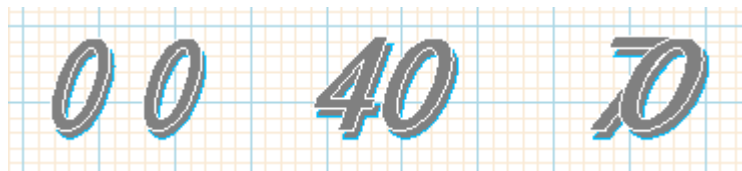
(ア) 重ね右前(する/しない)

重ねる場合の前後関係を指定します。



(イ) 重ね率

文字を重ねる割合を指定します。



8. 桁区切り重ね

(ア) 桁区切り対象文字

桁区切り(「重ね率」で設定した割合とは異なる割合で重ね率を指定したい文字)の対象とする文字を指定します。

(イ) 桁区切り重ね処理(する/しない)

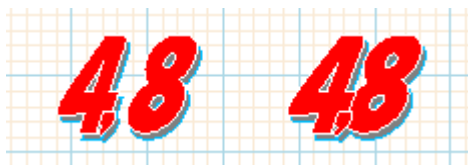
桁区切り重ね処理を行うかどうかを指定します。

(ウ) 桁区切り重ね率__前

桁区切りを行う文字と前の文字との重ね率を指定します。

(エ) 桁区切り重ね率__後

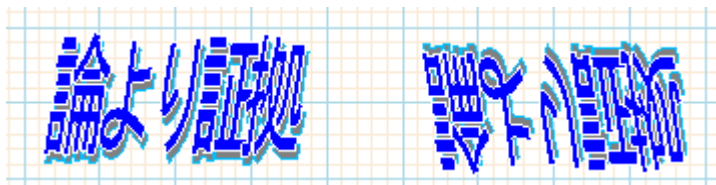
桁区切りを行う文字と後の文字との重ね率を指定します。



9. 反転

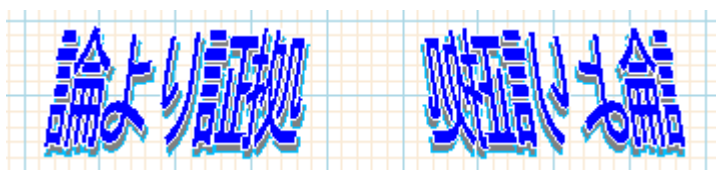
(ア) 上下反転(する/しない)

上下に反転するかどうかを指定します。



(イ) 左右反転(する/しない)

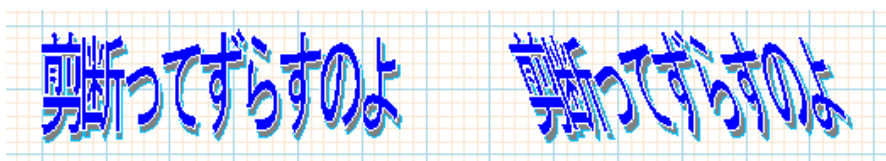
左右に反転するかどうかを指定します。



10. 斜体

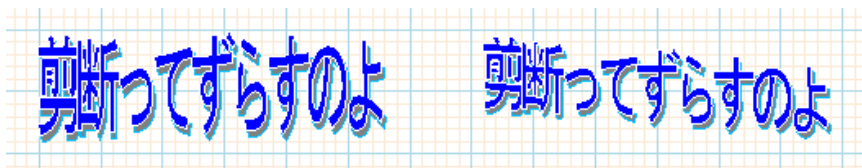
(ア) 斜体__横

水平方向の剪断率を指定します。



(イ) 斜体__縦

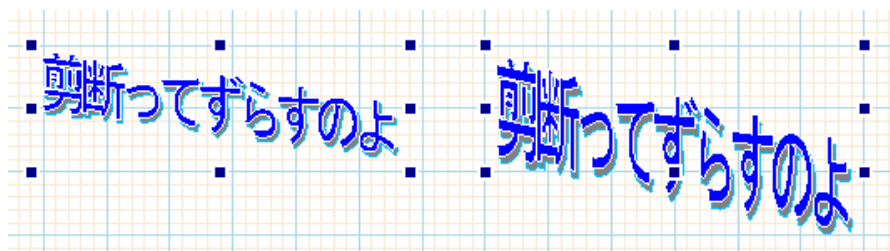
垂直方向の剪断率を指定します。



(ウ) 斜体による伸縮(する/しない)

斜体によりより変化した大きさを伸縮率に含めるかどうかを指定。「しない」を設

定した場合は、オブジェクトの大きさより文字が大きくなります。



11. 影

(ア) 影 X 位置(mm)

X軸方向の影までの距離を指定します。ただし、実際には影を描画した後に枠に合わせて拡大/縮小されるため、ここで指定した距離が最終的な影までの距離にはなりません。

(イ) 影 Y 位置(mm)

Y軸方向の影までの距離を指定します。ただし、実際には影を描画した後に枠に合わせて拡大/縮小されるため、ここで指定した距離が最終的な影までの距離にはなりません。

(ウ) 影付きによる伸縮(する/しない)

斜体によりより変化した大きさを伸縮率に含めるかどうかを指定。「しない」を設定した場合は、オブジェクトの大きさより文字が大きくなります。

(エ) 影文字色

影の文字色を設定します。操作方法については、[基本操作 vii](#) を参照してください。

(オ) 影枠線幅(mm)

影のアウトライン(外枠)の太さを設定します。ただし、伸縮前に適用される幅のため、伸縮後には拡大/縮小されるため、実際の幅にはなりません。

(カ) 影枠線色

影の枠線色を設定します。操作方法については、[基本操作 vii](#) を参照してください。

12. 繰返し

(ア) 列間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の水平方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

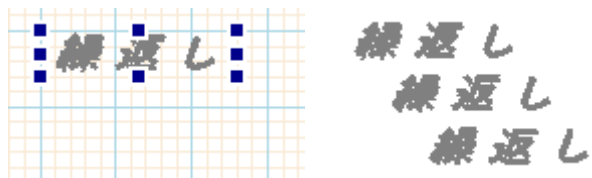
(イ) 繰返し回数

プレビューで繰り返す回数を設定します。(※参照)

(ウ) 行間(mm)

繰返しで生成するオブジェクトとの間の垂直方向の間隔を設定します。繰返しの位置の基準はオブジェクトの左上です。

繰返し	
列間	5
繰返し回数	3
行間	7

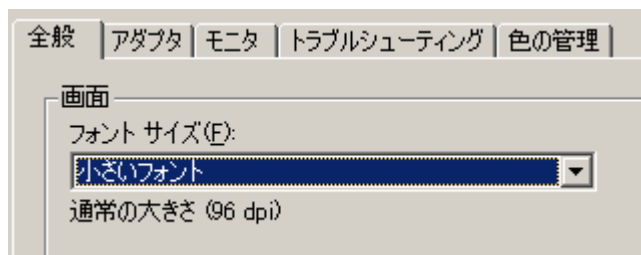


繰返しを設定した例（下はプレビュー）

※ 繰返し回数は、あくまでもデザイン時に確認のためにプレビューでのみ有効な値です。プログラムで帳票を制御する場合、ここでの繰返し回数とは関係なく、プログラムから繰返し描画を行うことになります。

Q&A

- プロパティグリッドが表示されないのですが?
 - 画面のプロパティの「フォントサイズ」が「小さいフォント」（デフォルト値）以外に設定されている場合、画面のレイアウトが大きく崩れて表示される場合があります。Reports.NET デザイナーをご利用の際には画面のプロパティの「フォントサイズ」は「小さいフォント」に設定して頂くようお願いします。



- オブジェクトの移動やサイズ変更を効率よく行う方法はありませんか?
 - オブジェクトの移動やサイズ変更は、マウスよりキーボード操作で行う方が効率的だと思います。移動は「Ctrl + 矢印キー」、サイズ変更は「Shift + 矢印キー」で行えます。また、複数選択による操作も行えます。弊社内での利用者は殆どがキーボード操作で位置合わせを行っている様です。
- プリンタで選択出来て、デザイナーで選択出来ない用紙サイズ指定する場合はどうすればよいのか?
 - Reports.net では、印刷時にプリンタで設定出来る用紙サイズとレポート定義ファイルで設定された用紙サイズを比較し、サイズが完全に一致した用紙としてプリンタへの印刷指示を行います。つまり、特定の用紙の情報としてプリンタを制御したい場合には、あらかじめ.NET 環境においてプリンタから取得される用紙のサイズ(1/100 インチ単位)をレポート定義ファイルに設定する事になります。デザイナーのフォームのプロパティの「用紙インチ指定」を「する」にして、プリンタで選択したい用紙のインチ数を「用紙縦」「用紙横」に指定してください

製品版について

Reports.net は、いつでもどこでもどなたでもご試用頂けるように、

<http://www.pao.ac/reports.net/>

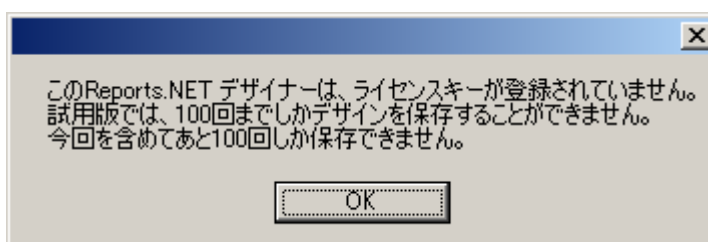
に試用版として最新バージョンを常にご用意させていただいております。

□ 試用版の制限事項(下記制限以外は製品版と同じです。)

➤ デザイナー

◇ 100回までしか保存が出来ません。

保存時に以下のようなダイアログボックスが表示されます。



➤ エンジン

◇ プレビュー及び印刷時に「SAMPLE」という文字列が挿入されます。(レポート定義ファイルのプレビュー及び印刷時には挿入されません。)



□ 試用版から製品版への制限解除方法

➤ デザイナー

◇ ユーザ登録後に弊社より認証コードを送付させていただきます。ご利用になるパソコンのデザイナーに認証コードを登録して下さい。

➤ エンジン

◇ デザイナー又はライセンスプログラムから認証コードを登録することにより、開発マシンのエンジンの試用制限も解除されます。開発マシン以外はライセンスフリーですので試用制限はございません。

使用許諾

Reports.net(エンジン及びデザイナー)の使用について、Reports.net の使用者(以下「利用者様」と称します)と有限会社パオ・アット・オフィス(以下「弊社」と称します)は、以下の各項目についての内容に同意するものとします。

1.Reports.net の使用に関する使用許諾書

この使用許諾書は、利用者様がお使いのパソコンにおいて、Reports.net を使用する場合に同意しなければならない契約書です。

2.使用許諾書の同意

利用者様が Reports.net を使用する時点で、本使用許諾書に同意されたものとします。同意されない場合は、Reports.net を使用する事はできません。

3.試用制限

Reports.net は、いつでもどこでも誰でもその機能を試していただくことが可能です。ただし、デザイナーでは一定回数以上の保存ができない、エンジンでは帳票に「SAMPLE」という文字が挿入されるという制限があります。

4.ライセンス(使用权)の購入

利用者様が Reports.net を正式に使用し続ける場合には、1 台のコンピュータで Reports.net を使用するにあたり、1 ライセンスを購入する必要があります。

5.著作権

Reports.net 及の著作権は、いかなる場合においても弊社に帰属いたします。

6.免責

Reports.net の使用によって、直接的、あるいは、間接的に生じた、いかなる損害に対しても、弊社は補償賠償の責任を負わないものとします。

7.禁止事項

Reports.net 及びその複製物を第三者に譲渡・貸与する事は出来ません。Reports.net を開発ツールとして再販/再配布することを禁止します。なお、モジュールとしてアプリケーションソフトに組み込みを行い再販/再配布する場合は、開発ツールとしての再販/再配布には含まれません。

8.保証の範囲

弊社は Reports.net の仕様を予告無しに変更することがあります。その場合の利用者様に対する情報提供は、弊社 WebSite にて行う事とします。

9.適用期間

本使用許諾条件は利用者様が Reports.net を使用した日より有効です。利用者様が本使用許諾条件のいずれかの条項に違反した場合、又は、本許諾条件に同意出来ない場合は、利用者様は Reports.net を一切使用出来ないものとします。

代金支払い方法(ユーザ登録の方法)

Reports.net を正式にご利用頂く場合は、ライセンスを購入して頂く必要があります。ライセンス形態及び代金支払方法は以下のとおりです。

- 必要なライセンス数の数え方
 - Reports.net をインストールするパソコンの台数。
※Azure 上で利用するライセンス(後述)を除く
- 1 ライセンス当たりの価格
 - エンジン + デザイナー.....60,000 円 (消費税込 66,000 円)
 - ◇ 本価格には消費税を含みません。
 - ◇ バグフィックス等のバージョンアップは原則として無償とさせていただきます。
 - ◇ 大幅な機能追加等によるバージョンアップの場合には別ライセンスとさせていただきます。ご了承ください。

本価格は Reports.net の使用権に対するものです。カスタマイズや保守等の費用は一切含まれておりません。
- お支払方法
 - (66,000 円×ライセンス数)を下記口座へお振り込み下さい。

銀行名	支店名 (コード)	口座番号	名義
三菱東京UFJ銀行	新宿支店 (341)	普通 3831891	ユ) パオアットオフィス
ジャパンネット銀行	すずめ支店 (002)	普通 6461359	ユ) パオアットオフィス
楽天銀行	第二営業支店 (252)	普通 7223094	ユ) パオアットオフィス

郵便口座番号	名義
00150-0-576845	有限会社 パオ・アット・オフィス

◇ 手数料は利用者様負担でお願い致します。

- お支払いの通知と製品の送付
 - 振り込みが完了した時点で、必ず弊社 WebSite の「入金連絡フォーム」から入金のご連絡をお願いいたします。
<http://www.pao.ac/reports.net/buy.html#form>
 - 弊社では上記連絡を受けて入金確認を行い、ライセンスキーを利用者様へ電子メールに添付して送付させていただきます。
 - ◇ 利用者様へは電子メール以外でのライセンスキー送付は原則として行いません。
 - ◇ ライセンスキーは原則として再送付致しません。受信したライセンスキーは必ずバックアップを取る等して、内容を大切に保管して頂くようお願いいたします。

- Azure ライセンスについて
ランタイムライセンスは、Azure を除き無償です。
Azure 上で利用する場合に限り、有償となります。
Azure の 1 URL(サイト・クラウド)につき 1 Azure ライセンスが必要です。
1 Azure ライセンスの価格は、税抜 5,000 円(税込 5,400 円)です。
Azure ライセンスは、次に該当するお客様のみご購入いただけます。
 - 通常ライセンス(開発ライセンス)とセットでご購入いただくお客様
 - 既に通常ライセンス(開発ライセンス)をご購入いただいているお客様

- 見積書/納品書/請求書/領収証の発行、納品後のお支払いについて
見積書/納品書/請求書/領収証の発行は可能でございます。本製品納品後のお支払いも可能でございます。
<http://www.pao.ac/reports.net/buy.html>
上記サイトでの手続きにより、弊社からの見積書/納品書/請求書/領収証の発行、及び、納品後のお客様からのお支払いを行えるようになっております。

変更履歴

版	作成日	変更点
1	2003.05.30	新規作成
3	2005.05.10	QR コード対応による、バーコードのプロパティ追加
4	2007.02.22	コンビニバーコードの追加 バーコードの描画方法プロパティ追加(直接描画)
5	2009.02.19	バーコードの黒バー調整プロパティ追加
6	2011.06.17	ライセンス体型変更により内容変更
7	2012.02.23	ライセンスカウント方法の誤りを修正
8	2012.04.04	文字(テキスト)オブジェクトの機能追加に伴う追記 その他、各オブジェクトの機能追加で、マニュアルには記述漏れがあったプロパティの説明などを追記。
9	2012.11.17	製品価格改定
10	2014.04.01	消費税アップによる税込価格変更
11	2014.09.09	縦横両方向へのオブジェクト繰り返し機能追加による記述追加
12	2016.04.05	次のバーコード追加による説明追加 PDF417 / DataMatrix / GS1 データバー(RSS)